

學友會報

第 三 十 三 號

神 戶 高 等 商 業 學 校 學 友 會

學友會報第八月號

- 勞働條件改善の基本原则……………須藤教授
對外政策の獨立と歸趨……………竹末 謙
人生を拜む……………青盛爲二
雲の生活……………武 幸太郎
ある手紙から……………松井隆之助
生れ出づるの神秘(詩)……………武 幸太郎
「夜」にまじれる灯(散文詩)……………矢部利茂
聖日他二つ(詩)……………太田準七
孟夏偷隱偶險(漢詩)……………竹末 謙
夏草(俳句)……………山田恒雄
團扇鈔(俳句)……………葉櫻會同人
- 諸 報
學校記事
同窓會記事

労働条件改善の 基本原則

須藤 文吉

這回戦争の犠牲が大なりし丈けそれ丈
け犠牲を有意義ならしめざるべからず。

之を所謂世界の改造と稱して種々の努力
が試みられる所以である。彼の國際労働
規約なるものが四月二十八日の講和會議
に於て決定せられ對獨講和條件第十三章
に挿入しあるも亦その一である。今その
内容に就て少しく説かんと欲す。尤も既
に報せられた事ではあるがその多くは未
だ何等の決定を見ざるものにして、何れ
來る十月米國の首都に開かるべき國際勞
働會議に於て改めて審議せらるゝことな
れば、此の際吾人の記憶を新にするも決
して無益のことでないと思はる。現に我
國もその代表者の人選に没頭中のこと
何れ四名の任命を見ることであらう。
而して四名の内二名は政府の代表者で
一名は資本家一名は労働者を代表すべき
ものにて等しく政府の任命と云ふも後

二名は各その團體よりの推薦に出づるも
ので結局國際労働會議にては一國四票の
投票権を有し、且其四票は投票に何等の
制限がないから、例へば甲國の政府代表
者の意見と労働者のそれと異なる場合は賛
否の投票は自由である事勿論である。即
ち對戰講話條件中國國際労働會議の章に左
の規定があるのでも知れると思ふ。

「毎年の常例會議は各國より四名の代表者(國家代表
二名雇主及び雇人代表者各一名宛)を出して以て成
立すべく各代表者は各別に投票権を有す云々」(因に
委員の外各議題に付二名の顧問及び一名の翻譯者又
は記者を帶同することを得。)

右の如く愈々來る十月には第一回國際
労働會議が開かるに付我國に於ける労働
者の代表を如何にして選任すべきか刻下
の大問題なり。蓋し未だ労働組合なるも
のは我國に於て公認せられざるのみなら
ず、所謂労働運動の主動者も其態度によ
りては直に治安警察法十七條の適用を受
くべく、一方最近有力となれる五萬の會
員を有する友愛會なるものも到底完全な
る労働運動をなす事を得ざるべく、他方
内務大臣に於て企圖しつゝある勞資協調
會の活躍の稱賛せらるゝ等全く混沌たる
の狀態なり。蓋し歐米先進國と労働問題

権能を有すべく採決せられたる建議事項若くは規
約草案は夫々の邦國に依て當該事項を律令法律そ
の他の行動に依りて運用し得べき権能を有する當
局に提示すべし又該當局の賛成は之れを批准し且
つ之を實施すべき義務を生ずる如何なる邦國
にても上記の義務を遵奉せざる場合は管理部門は審
査委員會に訴ふるの權利を有し委員會は調査の結
果國際聯盟は該違反國に對して經濟的制裁を執る
可し

ニ、氣候の關係・産業發達の不完全若くはその他實
際上労働條件の相違する邦國の爲め議和會議は勞
働規約草案に當り右相違點に就き考慮すべきもの
とす

四

要するに加盟國は産業に從來する賃銀
労働者の肉體上及精神上の福祉を計るを
至要の事項なりと認め世界改造の時に際
し、之に關する原則を定め國際的に實施
せんとするものである。故に先此目的を
達する爲め國際聯盟の機關と關聯して常設
機關を組織し、夙に英國に於て承認せら
れたるが如く「労働は單なる商品と看做
すべきものに非ず」との觀念の下に凡ゆる
産業社會に於て各自特殊の事情あるも
も労働條件を改善するを緊要なりとす。
但し急激に世界各國をして一統に出で
しむるは頗る困難なるべく、氣候習慣經
濟上の機會(Economic opportunity)并に産

業上の因襲(Industrial tradition)の差異を
考慮することとなり居る次第である。以
下彼の九條項に付概説を試みん。

第一、労働は單に商品(Article of Com-
merce)と見做すべきものに非らずとの
原則 (人的労働は權利上將た事實上商品又は賣
買目的物として取扱はれざるべきこと)

凡そ商品の價は賣主と買主との協定
によりて定まる如く労働者の報酬も雇
主と雇人との驅引によりて定まるもの
なれば、労働は商品の如きものなりと
の極めて單純なる理由等に基き誤まら
れたること極めて大にして、何人も一
見之を暴とせざるなしと雖も、實際上
此種の觀念に支配せらるゝこと多し。

故に此種觀念の打破は實際的に緊急な
るものと謂ふべし。蓋し「人は各自生存
の目的を有するものにして他人の生存
の目的に供すべきものに非ず」とは識
者の明言する處労働者は決して獸でも
奴隷でもなく眞に自由の民にして重大
なる一國の經濟に貢獻し居る以上之を
商品視し貨物扱をなすの非や多く論ず
るの要なきを以て、速に此種の思想に
基く制度は之を廢絶すべしとなすもの
にして本條件の基礎をなすものなり。

を協議すべく餘りに我國情の之に及ばざ
るものあるを發見せらるゝ次第である。

三

國際労働會議は國際労働法規委員會に
於ける左の決議に基くもので、當時の我
國の委員は落合和蘭駐劄全權公使岡前農
商務省商工局長及顧問として鈴木友愛會
々長なり。

(因に委員會は五大國より各二名その他より五名合
計十五名にて組織せられたり)
イ、國際聯盟加入國は國際労働局に加盟すべきもの
とす

ロ、加盟國は労働時間・賃金・幼年及婦人労働者保護
等に關し同一の規定を採用すること
但し各國事情を異にするものあるを以て或項未事
に至りては例外を認むべきこと
ハ、若し加盟國中の一國が此の規約に違反する場合
は國際聯盟經濟的制裁を加ふべし
又對獨講和條件に之れに關し左の規約あり。

イ、労働規約の規程に基き國際労働會議は國際聯盟
を組織する邦國に依て採用せらるべき労働改革を
目的として毎年一回之を開催するものとす
ロ、國際會議の爲め之れが運用を司り且つ會議事項
を準備する管理部門を設け又報告を蒐集し配するた
め國際労働事務局を設け事務局長の頭目は管理部門
に對し責任を負ふものとす
ハ、會議は三分の二の多數(會員は前掲)に依
りて事項に關する建議事項若くは規約草案を採

蓋し以下の條項は多く此の觀念に
するものと知り得るのである。

第二、労働組合権を認むるの原則 (法律
に違反する一切の目的に關し、雇主及び被雇者
ニ組合權及び團結を保障すること)

資本主組合と共に労働者の組合を承
認する事である。十九世紀に於ける一
般觀念として兎に角多數は少數を壓迫
するものなるを以て何れの團結をも之
を認めぬこととして居つた。蓋し營業
自由なる原則に依り餘弊防止上資本家
の團結を認めぬと同時に労働者の組合
を禁止したの事あるが、資本主一人と
労働者一人とは到底經濟力に於て大差
あるを免れないので、從て兩者間に於
て結ばれた契約は公平を失するを免れ
ぬは明白の事實である。

第三、最低賃銀に關する原則 (各労働者は
其國及び其の時代の文明に適應して相當なる生活
程度を維持するに足る賃銀を受くる權利を有す)

其の國其の時代に於ける生活の標準
程度に從ひその維持に必要な得、
即ち賃銀の支給を保障すること、勞
働は商品に非らず又能率に從ひ賃銀支
拂ふべきものにあらずとの見地を發せ
ること明かである。

然らば「生活の標準程度に對する賃銀」(Wage adequate to maintain a reasonable standard of life)は如何と云ふに實は大問題である。其註釋として「Understood in their time and country」とあれども不明瞭たるを免れない。現に我國労働者は日常の應對語として「近頃喰へるかねー」と云ふも、歐米にては此標準を單に充分なる食料を得るに足るだけの賃銀を指すに止まらず住所及び衣類に對しても相當の人格を保ち、且つ子女の養育は勿論ピアノ其他の娛樂的設備をも含ましむ生活程度向上に付一考を要するものと謂はざるを得ない。

第四、八時間労働に關する原則 (一日八時間又は一週四十八時間を基礎として工業労働時間限定すること)

此種の運動は夙に行はれたのであるが、一千八百九十年五月各國の労働黨が承認するに至りてより一層勢を得たものである。蓋しフリードリッヒ大王が「人間は八時間勉強し八時間休息し八時間遊ぶべし」と云ひしに思付けるものなるが、近代科學的研究の結果によるも明かに肉體的労働は八時間精神的労働は五時間を以て適度とし之を過

ぐれば疲勞することを證明して居る。即ち一日八時間一週四十八時間(日曜日休養)労働を主張するものなり。我國に於ても官廳銀行等夙に此の制度に依るものあれども一般工業界に及ぼす事僅少なり。彼の既に公布を見たるも未だ實施には十數年の経過を待たざるべからざる工場法の内容を窮ふ時は想ひ中ばに過ぎるものがある。況んや六時間労働の主張あるをや。

第五、日曜休業に關する原則 (各労働者は日曜を含む一週一日の休養を與へらるべく若し不可能の場合には之に相當する休養を與ふること)

耶蘇教に於ては日曜日を神聖安息日となすを以て日曜休業は主として宗教家により常に主張せられたる處であるが、労働者の健康を保持し家庭の和樂を享有せしむべく一週一回、即ち日曜日休業は必要なるべし。近來各業の團體等に於て公休日決定の實施を發表しつゝある偶然に非らざるを知ることが出来ると思ふ。

第六、幼年者労働に關する原則 (一定年齢以下の少年は其心身發達に適當なる機會を得るため工業又は商業労働に一切從事せしめざる事、一定年齢以下の青年男女は其身體發育を兩立し且つ其技術的及び一般的教養が繼續的に確保せらる

條件の下にある作業にのみ從事せしむること) 即ち幼年労働(Child labour)の禁止、少年労働(The labour of young persons)の制限を定めたるもので、我工場法に於ても此の種の労働に關して制限あるを見る。蓋し教育及び保健上重大なる關係あるに由る。現に我國は佛國の如く滿十二歳以下のものは工場に使役することを禁止十五歳以下のものを幼年工として種々の保護規定を設くるも、伊國は九歳英國は十一歳以下等の制限を設けあり。何れ將來一層の研究を重ねることとなるべし。何んとなれば女工保護の問題と共に初めより問題の中心たりしに由る。

第七、男女工對等賃銀に關する原則 (同量同質の労働に對しては男女の區別なく均等の賃銀を支拂はるべきこと)

歐洲に於ても婦人労働者は比較的賃銀も低廉に且柔順なるを以て寧ろ男工を排除して多く女工を使役せり。然るに戰亂の勃發に當り女子は各種の労働に従ひて毫も男子に劣らざる底の工程即ち能率を發揮せり。故に一方に於ては其虐使を防ぎ他方に於ては所謂女權(婦人の品格の向上)擴張に伴ひ宜男女工差別を設くる事なく、同

銀(equal remuneration for work of equal value)を受へべきものと主張せる次第である。

第八、外國労働者公正待遇に關する原則 (一國に合法的に許容せられたる外國労働者及びその家族はその労働條件及び社會保險に關し該國々民と同等の取扱を受くる權利を有す)

その國に在住する労働者を自國労働者と同等の待遇(regard to the equitable economic treatment)をなすもので理由は説明を要さない。但し適法の在住者(all workers lawfully resident there)であるので、米國が我移民に對する制限を撤廢せるものと即了する事は出来ない。

第九、労働保護監督制度に關する原則 (各國は労働者保護に關する法規の適用を確保する爲めに労働監督制度を設くべく該官には婦人も採用すること)

以上の如き労働者保護に關する原則を立つるも之を實行せざれば全く畫餅に歸するを以て、各國政府をして其實行に努力せんことを求むる爲め必要なる監督制度(a system of inspection)を設けざるべからず。而して婦人の利益を確保する爲め監督員中に婦人を加ふることゝなれり。當然の要求である。要するに、労働者の待遇條件を向上せ

しめ且つ内外人は勿論男女工に對する差別を撤廢し、且つ幼少年工を保護して以て一國の労働能率を發揮すべく之れが實行に必要な監督制度を完備すべしと謂ふにあり。

尤も右は大綱を示すもので將來更に研究を重ねる事は勿論である。該案文の結末にも以上は完全且決定的(Complete or final)のものとは自讀し居らず。只國際聯盟の方針を指示するに適切(well fitted to guide the policy of the League of Nations)なりと信ずるのみとあり。幸に各國に於て之を採用し且つ完全なる監督制度の下に實行せらるゝならば、必ずや世界の賃銀労働者(the Wage-earners of the world)の上に恒久の福利(lasting benefits)を齎すべきものなるや明白である。

五

偕て以上の如き規約が發表せられ、本年十月を第一回として會議を重ね、具體的研究を遂げ、各國が歩調を一にして實行することゝなれば、産業界の改造はよくその目的を達することであらう。

左に本年度の議題及び諮問事項を列記せん。

- 第一、一日八時間労働及び一週四十八時間労働原則の適用に關する問題
 - 右に付各國の現行法并に慣習目下懸案中の法律案等を豫め明示すること
- 第二、失業預防又は防退に關する問題
 - 右に付失業の性質・範圍・豫防の方法・強制失業保險制度その他失業に對する公設機關及び任意施設の概要を明示すること
- 第三、女子の雇傭に關する問題
 - 右に付産前産後に於ける女子の雇傭(現行法及び慣習現在考慮中の提案等)夜業及び衛生上有害なる作業に於ける女子の雇傭の(現行法及び慣習等)状況を明示すること
- 第四、幼年者の雇傭に關する問題
 - 右に付幼年者の最低年齢及び夜業(現行法及び慣習等)及び不健康なる作業に従事するものに關する状況を明示すること
- 第五、機寸の製造に於ける白磷の使用禁止を目的とする千九百〇六年ベルン國際協約の擴張及實施に關する問題
 - 右は五月六・七兩日英國労働省内の國際労働會議事務所に於て第一回準備委員會にて日・英・米・佛・伊・白・及瑞西の七箇國の所謂國際委員が決定せる事項にして、引續き第二回を六月二十八日巴里に於て、第三回を七月十五日倫敦に於て開き、各種の準備をなす等にて、我國に於ても農商務大臣官邸に於て前記の事項に

對する回答案に付審議中なり。

六

猶終りに加盟國の一角規約の實行に違反したる場合に、之に課すべき經濟的制裁に付略言せんに、違反國に對しては凡そ左の條項を適用せんとするものである

甲、違反國に原料を與へざること

乙、違反國の製品に高率なる區別關稅を課すること

丙、違反國の勞働者の來住を制限すること

されば本問題は單に勞働者の地位を向上せしむる等國內の問題たるのみならず重大なる國際的經濟及政治問題である。蓋し之を待遇改善に關する勞働者の要求問題とするも、先進文明國にありては此種の要求をなさんとすも、劣等の勞働條件國の產物の競争を受けんか、資本家の地位も不安を來すべく、從て勞働者も其目的を達する事が出來なくなるの一大障害に遭遇するのみならず、同胞勞働者の地位の改善は人道的處置たるや明かである。此等の點を考量するときは益々我國產業界の前途に對して充分なる施設の缺くべからざるものあるを發見する事が出來ると思ふ。何んとなれば多少の犠牲(混亂)は免れずとするも、宜しく世界の改造期に際して孤立を避けよく大勢に順

應し、以て外は與國に盟を立て、内は凡ゆる改革を斷して一等國たるの面目を維持せざるべからざるや明かなればなり。之れ内容の概要を説き國人の此種の問題に付き深き注意を惹き益々研究を進め以て有效なる實施を希望する所以なり。

(八、八、八)

對外政策の獨立と歸趨

竹内 編

噫、曠古の英帝明治天皇、日本をして衛星の大系列より脱出せしめ給ひ、吾人をして光輝あらしめ給へる明君先帝陛下。元如、其の崩御の悲報に接し、吾人が食箸を落し潸然として涙せるとき、權威四海を壓倒せるロンドンタイムスは何等の聲を洩せしぞ。曰く「凡百の種族英雄期あり、三世を通ずる國家又英雄期あり。青史之を實證せり。日本又此の例を免るべし能はざるべし。日本は今日即ち明治時代を以て無二の英雄時代に別離すべし」と。締盟の敦厚を忘れ、吾人日本國民の哀涙を外に見て、大義を解せざる攻守同盟國人而もそを代表する所似文化人は如斯不祥の豫言をなせり。然れど目的物なる天意に默從して、禍福の秘鑰を運びつゝ又、黒と白との音樂を奏しつゝ回轉せる地球は、エマーセンシーの黙啓により亂脈を惹起し、果然彼等の豫言を裏切れり。塞國一青蛉の銃聲は、全歐を以て百年前の神聖同盟の締盟書を一枚の反故とし、右

詳なる豫言は世界の黎明の歡喜は瞳々たる旭日にあるを無視せるによるなり。

我が大日本は今や事實上、世界の日本なり。北吟吉氏の言を借りて言へば、日本は正しく英國の番犬として又五國借款の執達吏として慚愧すべき國際的地位より、支那自身の外交政策は勿論、歐洲各國の對支政策をも左右し得る東洋の盟主たる地位に進めるなり。亞細亞モンロー主義の提唱も可能なる地位に上り、又太平洋時代の主權者たるべき地位に向へるなり。昇る麗陽の前に光明は凱歌を輪唱しつゝあり。かく觀し來るべき、吾人は彼の「獨逸人たれ。然らずんば死せよ」と叫びし大幻。想の一頑哲ならずとも「我は日本人なり」との幸を厚くエンジョイするものなり。

却説、吾人は職つて脚眼下を照顧するの權利を有す。冷靜なる批判と省察を以て内實の日本、現實の日本の國際行爲を觀照せざるべからず。於是乎、吾人は論理と道程とが日本をして斯く進ましめざるべからざるに、現實の日本が種々なる難關に懨懨せられつゝあるの矛盾を發見せり。數日前獨逸の一騎兵大將ベルンハルガーの輩をして「日米開戦の曉は兩國相互に滅滅の厄を免るべし。日本は米國を征服するを得ず」との證明的言動をなせしめ又、顧維鈞、王正廷の徒をして「日本は山師なり」と叫びしめたるは一つに、當局の強壓的政策樹立の缺如せるに依るなり。米國視察より歸朝せし某氏は、二個師團の日本兵を上陸せしめば米國を蹂躪する底の事は茶飯事のみと語れり。其の米國、假令ヒューリタンの淨血を流せし歴史を有し、這般大戦に於て幾分國家的團結を味ひたりとも、國家的基礎觀念の日本より適かに低劣なる、黄金萬能の米國、如此惡質の大國何ものぞ。又構謀諷刺飽くなき日面の顧、王の小輩、取るに足らんや。然るに現原内閣の外交が、

嚴肅端正、君子を修するの點は嘉すべきも其の各方面應衝に於て因循姑息、遲疑逡巡は吾人の探らざる所なり。

贖罪文學の一俊傑は、人生と國家との徳的眞相を披露せり。

「Thou preachest immorality?

Give ground or else we doubt it;」

「Surely. The strongest basis is.

We cannot live without it;」

何等誠意なき國際聯盟、人道を標榜する基督教國が、神の無上命令を侵犯し、如何なく其の低級道徳を暴露せし對人種平等案問題、之等は、弱國の對日本横暴を鼓吹し增長せり。朝鮮の如き支那の如き然り。

支那は之れ「一大吠盧、萬大和」の類か。三國志的小才子の虚構の一句に、爆發的に相唱和し、エゴイズム、シンズイズムの爪牙を隠せる英米人の掌裏に籠絡せられて直ちに操狂に走らんぞ。憐なる弱者よ。支那國士の或者は、外國殊に英米をして日本を制馭せしめんの妄想を懐けるものあり或は、無根なる日本の領土的野心を指して日本は日支親善の假面を被りて、大亞細亞的渾融の赤心なしと唱ふ。されどそは却つて目撃して支那人に宣傳すべきなり。今日の日本は、眞實に、日支提携、兩國の福祉増進、殊に支那の文化促進を翹望して已まざるなり。而して非合理的なる基督教國民の横暴に對抗するに、同種同文の支那と提携して佛教の一大局限團體を組織し結束して起たんことを欲するなり。佛教は眞理に於て基督教に勝ればなり。かく日本が誠心誠意、文化的汎亞細亞主義を提唱し支那の保全を誓言せるにも拘らず、今回一度強硬通告をなし、尙支那にして此の後は斷然、現在の排日的態度——日貨排斥、宛城子事件の如き。山東問題に伴ふ反

手に劍を磨して國境へくこ進軍せしめたり。餘波は遠く太平洋と印度洋の岸をも囓めり。軍塵の渾沌五星霜、漸くにして戈血を洗ふに到れり。而して戦の犠牲や大なりき。禍相コッソツオをして「此の一戦に敗績を見たりとも露國大驚旗は日本海より撤去すべきに非ず」と叫びしめたる露西亞、カイザーをして「黃禍可怖」と呼ばしめし舊獨逸、共に今や瓦解して吾人をして轉た架空頹廢の惶慄を覺えしむ。かくて吾人が國々の倒壊し行く悲慘、大主義の廢頹しゆく哀傷に浸る間もあらず、新主義(創造に非ずとも)の勃興は吾人に刮目を促ししぬ。そはカイザーイズム、オウトクラシーより、デモクラシーへ或はロイヤリティーよりカリガーキー、カリガーキーよりデモクラシーへ轉々移變しゆく過程の偉觀なりき。

「現代は多數なり」又は「個人の自覺膨脹」將又、ウィルソンの宣戰布告書中の「世界は民主主義の爲めに安全に確保せられざるべからず」等の標語は、デモクラシーに、假令そが獨逸の森林より誕生せりとも現代に於て其の大主義的價値を興へたり。獨逸は自己の所産なるデモクラシー、久遠の自由、協力、相互責任、民衆の平等化の諸項を綱領とする——の爲めに自殺せり。世界は、一面に於て過激思想を眺みつゝ、驚異を以て漫漶しゆく此の大主義を凝視せり。

如斯、今日の世界と昨日の世界との間には鉅大なるポイントが打たれたれども、今日の世界は吾人の以て足れりとする所に非ず。宜しく吾人は今日の世界と明日の世界との間に正當なるポイントを打ち、痛快なる明日の一大エポックを創始せざるべからず。現時吾人の國家生活は假令蛇來り、魔來り、民主主義來り、ボルシェビク來るも動すべきに非ず。ダイムス紙の不

日思想醸成——を一變せざるに於ては、日本當局も覺悟の齋を固めざるべからず。何時迄も見越して黙過すべきに非ず。古來神は文化主義の爲めには、軍國主義利用の特權を強者に賦與せり。佛の顔も三度迄なり。倭姦頑冥の輩は鐵拳以て轉弱すべし。孤忠空しく野に委せしマキアベリは其の君主論(一名經世策)に於て、一國の君主は人民に愛せらるべきや畏れらるべきやの問題に對し後者に斷言を與へたり。又、驚異を以て見らるゝ社會心理學大斗ルゴンはその群衆心理に於て、喧囂の輩は一將軍の一喝よく之を逼塞せしむと結論せり。文化禮讀が現代の趨向なりとせば、博大なる文化實現の爲め倭姦頑冥の老大國に軍國主義による正義の寶劍を見舞ふ何の不都合不條理がある。

若し一國民にして、日本國民を排擠し、且つ國民的自由を奪取せんせば、國家最高目的が文化實現、平和享樂の兩者を出でざる以上、手段として軍國主義の大旗を翻し劍の裁判に訴へんことを素より神の承認し給ふことなるなり。日本には荒魂、和魂の二柱の主神あります。荒魂は即ちマーズの神にして、古來より日本はマーズの神の寵兒たりしなり。唯、彼のハイムリッヒ、フォン、トライチエケの生れざりしが奇異なるのみ。

旭日の國、破邪顯正の秋水あり、無想、神影、佛眼の利劍あり。支那のみならず曲辯排日を企圖する輩は寶刀以て首體を變する蓋し咄嗟の間のみ。

爾今、朝野、日本の他律的外交を罵詈するの聲喧し。而して其の罪を一つに秘密外交の無爲に歸せり。然るに日本が少くとも官僚、閣、元老の名辭を存し少數先覺の協商附議による言はばブラトーンの哲人政治的傾向を有する以上、秘密外交は不可避の策なり。即ち

民は依らしむべく知らしむべからざるなり。他律的外交の非は當局就中、派遣使臣が折衝毎に、餘りに夫于然たるの舉に出で、經濟的軍國主義のマツクを以て面を覆へる策士、悪戯を企劃する悪魔の間に、正義を頑守し、軍國主義的色彩の褪色に腐心する點にあり。例へば Rip Van Winkle が Catskill Mountains の amphitheatre に於けるに似たりしならん。他律的外交は一國の無氣力、衰退を意味し自律的自主的外交は一國の興隆、強大を意味し我國は維新以來後者に法れり。而して自主的外交には必ず經濟的若くは武裝的軍國主義を伴ふものなり。而して外交の機微を穿んと欲せば、輿論の交渉に無關心ならざるべからず。輿論何の關する所ぞ。要するに輿論は惡質風俗の個々の意志の群衆心理的集合に外ならず。輿論は往々にして近視眼流なるが故に其の方向を誤るゝことあり。而して此の輿論の思想に逆行して飽迄永遠の國民の福祉と文化とを企劃する之れ眞の政治家に非ずや。

依之觀之、日本當局は宜しく國內的には謬れる輿論に逆行して迄も久遠の福祉に向つて努力し、對外的には既陳對外交主義に準じて、自主的自律的硬外交政策を樹立すべし、吾人をして Longfellow と共に歌はしめよ。—— Be not like dumb driven cattle

Be a hero in the battle

試に日本人口を想ふとき、年々内閣統計局の發表する増加率統計の異數に上るに驚かざるを得ず。加之、物價昂騰は、時計の針の後退せざるの眞理を守りつゝあり。國民中最大多數を占むる第三者階級、殊に勞働者に關する諸問題はデモクラシーの喧傳と共に異常なる重要味を増加し、内國的は勿論對外的問題まで轉化せり。ラサスの生活極限貸銀法則の破れしは業已に遠き過去に屬し、今や資本家に對する勞働團體、結

社の組成等の現象を促成し、資本對勞働の紛糾を甚大ならしめたり。

かくて第三者階級は俄鬼と修羅の狂暴をも辭せざるの態度を以て資本家に肉薄し、國內の軌躔、階級の暗闘を廣汎深甚ならしむるに於ては、國家至上目的の一たる國民的福祉の滅殺せらるゝ幾何ぞ。「民は疲れたり」とは佛蘭西革命の序幕が切つて落されんとするとき、一憂國者の言なりき。我國民果して生活保障の護符を授けられてありや。足一度貧民窟に墮ち、彼等は、人間たらんよりは生きんが爲めに野獸たるべく餘儀なくせられつゝあり。貧則貪、窮則亂と、剩へ昨今過激派のプロバガンダは横濱神戸等我國の中樞に侵入し、香餌を以て、低給料者を誘導せんを努力せり。浸潤之潛きは死語に非ず、當局の妥當なる謀策を俟つ。

生活の不安は土地狭小、人口過多による。一英人は長崎に於て、長崎は人口餘りに多し。十年後滅亡すべしと語れり。蚯蚓を小籠に詰めよ。翌朝彼等が色褪せて死せるを見ん。

土地は人類生存の母胎なり。而して同一土地を二者同時に占むる能はず。狹隘なる日本は、無限に、人民に土地の自由を與ふる能はず。早晚箱詰の國民を曠野に放ちて雄大なる雰圍氣に觸れしめざるべからず。

All the creations are created equal—so and so 況んや人類相互間に於て土地的享樂を壟斷せんとするが如きは、神罰に相當す。當局は、國民に正當なる海外雄飛の方向指針と保全とを賦與せざるべからず。然るに事實の矛盾は吾人をして此の一文を稿せしめたり。日本臣民の往く所、何處ぞして民族的惡感情を以て迎へられ且つ排斥せられざる所ありや。之れ國民の不注意にも依るべけんも、又當局も責を免るゝ能はず。又各國民人は先天的に我大和民族疎隔、攘斥の先入感を有す

るものゝ如し。此の問題にして解決せられずんば、滿員の日本劇場には瓦斯窒息者の續出を來し、世は澆濁の末に到るやも計るべからず。識者は今日を見て明日を察し永遠を思はざるべからず。

宇宙と人類、人類と國家、國家と人民、此の間の哲理を究明する時、神の意志によりて特殊的環境を與へられたる日本帝國の探るべき唯一の道は、吾人の意味するが如き強硬外交、自主外交にあることを知る。

吾人は、最高理想として世界平和を熱愛するものなれども世に姦惡者の影を絶たざる以上、軍國主義の手段に出で、世界の統一と指導に力め、止善の公準を規定せんことを冀ふものなり。之れ神意に即する唯一の眞道なりと思惟す。

Goethe は畢世の大作家 Faust に於て Mephistopheles をして次の如く言はしめたり。「戦争可なり。平和可なり。之れを利用せよ。利用するものこそ賢明なるなれ」と。こは誠に、基督國及び其他弱國の低劣な徳的心理を闡明せるものならずや。於是、吾人の寶刀に聲あり光輝あり。破邪顯正に徹せずんば已まざるなり。若し事悉く吾れに非にして世界を敵として相戦ふの時機に逢着すせんか、吾人大和民族素より辭せざる所なり。刀折れ、矢竭き、日本國民一人となるまで、力闘せんを欲す。獨逸の如き殘骸を洒すことなく。

要は「我れは日本國民なりと明言し、旭日曠々の國旗を翳して、世界に雄飛せんのみ。正義を以て進む吾人の行路を阻む姦邪の輩は歐然血の戮列に訴ふべし。」

附言——アイヒホルン曰く「國民に國家的自覺なきときは其の國家は退嬰の期に在り」と。此の意味に於て吾人は此の稿をものせしなり。因循沈滯、何等勳健の潮氣なき青年堂に満てり。憂國の士噴せざるべけんや。衰敗は甘受する所。

人間を拜む

青盛 爲二

ドストエフスキの罪と罰、ゾイクトル、ユーゴのレ、ミゼラブル。此の二作を通じて見る現實は醜い。虐げられた人々の苦しみ、悲しみ、其所には不義、不正、不公平が明らさまに行はれて居る。此の黒い現實の中で人間の惱める魂は泣きわめいてゐる。併し二人は此の現實を包む黒帳のみを見なかつた。彼等は現實の暗黒の中に輝いて居る人道の美しさを認めた。涙に濡れた眼に哀憐の情を満して此の現實を見た。彼等は共に人間の苦しみに對して跪いた。彼等は不純と醜汚をも含んで居る人間の心の中に、神の姿をさへ認めた。さうして神を恐れる心と心との熱い抱愛を信じた。

哲學的誤謬から殺人罪をも敢て犯したラスコルニコフがソーニヤに依つて始めて人類に對する深き愛を覺つたと云ふ罪と罰のエピソードを讀んだ時に、私の心は靈魂の復活の限り無き希望に滿された。暗い現實の中に神々しい光さへ感得

した。此の世界が限りなく美しく幸福な天國の様に思はれた。併しそれがほんとの現實であらうか。憧れと云ふ色眼鏡無しに見た現實の姿其の者であらうか。

レ、ミラブルに現れる聖女バプチスチンの姿を想像に描いて、誰がそれを偽なしに心から、美人だと感じ得やう。人々はその色も香もない肉の上に一種崇嚴な光を添へる聖い氣高い心の美しさを感じ得ぬ者は人でないと、長い間教へられてゐるから、或はそれを美人だと云ふかも知れない。けれど我々が此の束縛から離れて、偽りの無い自由な感覺の世界に飛び出すことを許されたらば、誰が其の骨と皮との姿を美と感ずることが出来るやう。

此の世では聖き人が必しも美人だとは云はれない、富の分配が甚だしく不公平である如く幸福も人々の間に公平に分たれては居ない。私に取つては現實は依然として暗闇だ。一部の人の様に此の世を樂園だと感ずる事は出来ない。人間は生れ乍らにして各其の悲しみを背負つてゐる。地が何所までも續いて居る様に、人々の悲しみ苦しみにも果てしが無い。

「俺は何故こんなに苦しまねばならぬのだらう!」

少しでも考へることをする人々はかう云ふ。

額に汗して働いて居る人々が、生きて居る間に僅かな快樂も求め得ないのに、もう死が彼等に近附いて居る。生きよう／＼とする人に取つて死程恐ろしく悲しいものはない、死は天國に到る門だ等と彼等を安價な安心に落附かせてはならない、死程恐ろしいものはない、死は現實の悲惨の眞實だ、誰が「タンタデルの死」を死の恐怖を起すことなくして讀み了る事が出来るやう。ラザロの死んだ時クリストは涙を流した。彼にはラザロの行つただらう所の天國の美しさが眼の前に浮んだに違ひない。而も彼は泣いた。死は現實に生きる者に取つてそれ程悲しい。

併し私は現實の中に悲しみを見出さうとするものではない。死があれば生があり、悲みがあれば歡びもある。生と死、悲しみ歡び、それ等は波の起伏の様に重なり合つてゐる。其の生と死との間から播つて來る人間生活のごよめきの聲が懐しい。其所に私の命の糧がある。

自分の胸にヒシと抱いて居る愛する幼兒の死によつて、始めて破倫の夢から覺

めた不義の母が幾人あることだらう。迷へる子を正しき道に呼び返へし給へと涙を流して祈ると慈母の死によつて、悔い改めた放蕩息子がどんなに澤山あるだらう。

人生は闇であつてもいいから、せめても人間同志の歎び悲しみを心から味ひたい、近い者からでも相愛する様に成りたい。親や友や、戀人や、そんなもの、愛を思ふ時に、こちらの心が純であれば、俺は人間の心の殿堂の前へ跪く」と云つて居る。何だか心が嬉しい様な気がする。けれど此の心は常にはない。不純な分子に満されることもある。少し汚い言分だが「糞など喰へ」とさへ思ふこともある。私はそれを悲しく思ふ。併しそれが爲に人間が凡て不純だとは見たくない、純なれば純なる程人間は美しくなつて來るだらう。併し不純な所はあつても人間は尊く懐しいものだ。人間同志の間には互ひに同じ生命の流が流れて居る。私には人々が自己を深く見つめれば見つめる程、さうして其態度が眞摯であればある程、各人の把握し得た生命の本質は皆同一である様にさへ思はれる。

私は明かに現實の苦しみ醜さを認めながらも、尙現實を厭ふことが出來ない。或人を憎むことは出來ても概念的に人類を憎むことは出來ない。或人の或部分を輕蔑することは出來ても他の部分は之を尊敬せずには居られない。自分と云ふ者に深く突き込めば突き込む程、さうして其の態度が純であればある程、人は自己の足らざる所を知ると同時に、又自己を尊敬せずには居られない、自己尊敬は又他人の尊敬にまで及ぶだらう、其所に單なる權利義務からでなく、ほんとの強い有機的社會連帯が形作られる。

私に取つては神の完全よりも、人間の完全の方が尊くて美しい。復活の勝利と喜の輝いて居るクリストの顔より、十字架上に苦悶して「み心に叶へば我より此の盃を取り去り給へ。」と叫んだ時のクリストの顔に、より多くの傷ましさと懐しさを覺ゆる。其所に神で無ない人のクリストを見る。マリヤの像に向つて十字を切ることを拒んだラスコルニコフが、美しいソーニヤの心の中の惱める人道の前に跪いたことを、ゆかしく又最も自然な事に思ふ。マリヤが自分の像の前で毎夜々々輕業をして居た輕業師上りの僧侶の

汗を拭つてやつと云ふ、アナートル、フランスの或偶話を意味深く感ずる。人間の苦痛から女々しくも顔を背け、其の醜汚から離れて獨り完全なる神に頼らうとする人に、さうして人間らしい純な心があらう。人間を愛し、人間を尊敬し、人間の苦しみを苦しみ、人間の歎びをよるこび、人間の尊さを拜むことをしないものが、如何して神の前に純であり得やう。多くの人も人間を拜んで居るだらうけれど、それは人間を通じての神を拜むのか、さもなければ人間を神性視し偶像化するものであらう。人間生活から來る淋しみ、歎び、さうしてそれを現實主義者(勿論理想主義にまでの延長性を有して居る)として味うとはしないらしい、人間の生活の奥底から湧き出づる悲しみ苦しみ歎びの聲の中に、人間の眞の尊さを見出さうとしない。

けれど私は直に四海同胞を夢みる幸福なる空想家ではない。男らしく現實を肯定して、地上に劃する愛と眞理との自由を築き上げやうとする色々の努力を此の上もなく尊く又必要に思ふ。此の意味に於てマルキシズムも、國家社會主義も、トルストイズムも、ネオ、ローマンタイシ

ズムも、皆各々世界改造の上に功を分つてあらう。併し凡ての社會運動の根本は、人間の價値と權威を正當に見積ることであらねばならぬ。個人の自由を認めることであらねばならぬ。人を尊敬することであらねばならぬ。外部の物質的條件を良好にすることに依つて、其の内部的苦痛をも除き得ると云ふ、唯物主義が徹底的に眞理であるなれば、人間はもう餘程以前により多く幸福であつたらう。外部的生活の豊富なる人には、内部的生活の惱みは無かつたであらう。少くなく其今日程激しくは無かつたであらう。

勿論私は富の分配の不公平が、幸福の分配の不公平の主たる原因であることを知つてゐる。然も富の分配を公平ならしめる凡ての運動も、虐げられた權利の恢復を求むる凡ての要求も、みな人を尊敬に逆引上げ不當なる人の苦しみに對して跪く意味に於てはなかつたら、それ等が反抗の爲の反抗に終る事を幾度も繰返へして證明するの結果になる事を恐れる。私は再びラスコルニコフの口を通じて、ドストエフスキの言葉を借りやう。

I do not bow to you personally, but to the suffering humanity in your person. (終)

雲の生活

戈止漢

人間は到底環象の子であります。自然に對する驚畏は宗教の源であり哲學の起りであります。是れ人間の最も美はしく床しき本能であります。十九世紀の偉大なる科學の發達は莫大なる智識を興へて呉れました。天文学、地文学、生物學等を通じて我共は自然を眞實に理解し得ると云ふ自信をすら抱くに到りました。乍併科學は皆あぶなかしい假設の上に立つてゐます。ダルウキンの進化論の如き一時科學者、反宗教者を隨喜せしめたものであります。けれども其の後、フリスやクロボトキンやヘルカソンの出現により其の學説は根底よりぐらつてゐるではありませんか。自然は生命の瀑流が奔放して進み行く過程の表徴であります。西田博士の言に依れば象徴は意味と存在との結合であり精神的なるものと物質的なるものととの結合であります。私は自然を象徴と申しました。勿論斯く申したからと云つて藝術を否定するのでありませぬ。赤裸々なる心勝を以て象徴なる自然に融入する時宗教が生れ詩が生れます。此の時私共の最高主觀たる自我が認識の最高潮に達し其處に哲學が生れます。私は道徳の究極限は本能の世界だと思ひます。動物性を脱却して一度自覺と批判と統合と淨聖とを経て純化せられた第三次の立體的な一言にして曰へば自由な本能の世界であると思ひます。煩雜なる論理と斷片的な智識とを有してゐる私共が本能の世界に直覺の世界に自然を通じて意味と哲學と宗教の世界に出入し得ることは非常な

淨福でなければなりません。私はこの様な心持で自然に對します。否天然の組織間に喰入つて行きます。自然は私にさり大能者の藝術です。彫刻です。繪畫です。詩です。音樂です。自然の中私は特に雲を愛します。

「自然愛の歌人タゴールが「新月」の中に「雲と波」と題する Sonnet を載せてゐる。雲の中に住む人が小兒に向つて「天上に來つて雲の生活に入れ」と誘ふ。之に答へて小兒は「お母さんが家で待つてゐらつしやるから行けない」と拒む。雲は潔々として立ち去るを謂ふのが其の結構である。私はカラスメヤアの湖畔詩人の音草の通りに哲學と經濟學の書物を離れて「環境に對して無邪氣な小兒の純な心をもつて」露を飲み霞を食む雲に乗じて羽化して登仙するであらう。私は孤獨の友なる雲の生活を紹介します。

雲の生活は極めて複雑であります。從て之を科學的に研究する事も興味深い事でありませぬ。即ち雲の形態色彩、粗密、分類、高さ、速度、温度及び湿度との關係、空中電氣と雲等より考へて見る事です。然し私は私の友達である雲を如斯外部より觀察し度くはありませぬ。雲の生活の内面より觀察致しますのです。

ラスキンは Modern Painters に於て雲の特徴を擧げ其の中雲の變化性、群衆性を言つてゐます。雲の第一特徴は變化性です。

高山は雲表に聳えてゐます。雲は深々としてゐる中に山に近づくと其の靈の偉力に引附けられるのです。高山と雲とは戀人なのでせうか。併し早秋の時など野の青草が干し上げられて唸鳴してゐると大きな雲がユウラリユウライと山を離れて來ます。山は惜しむと

に見送つてゐます。井底の蛙が雨を待つてゐる。雲は嘲笑するものゝ如く一擲して向側の山の上に滞りま

瀧木すらなき岩岩々たる道を行く雲來る雲の内を潜つて否雲に携えられて徒行くことの如何に詩的な事

より山下に俯瞰する漢々として湧き綿々として連り洋々として曠がり渺茫として無際限の雲の海の大々。

「山で何が好きか」と聞かれたら自分は霧、と答へる」

山は其の高き丈け天國に近い。高山は靈山です。山岳殊に深く高き嶽には宗教、傳説が生れます。

雲程神秘なものはいく。雲は靈的なものです。往昔エホバの神はホレブの山に於て雲の中より豫言者モー

ダシテの神曲を見ても宇宙の最上界たる輝淨天に於て光明の海に愛の光が輝く然し自然の美觀たる光も雲

雲は宗教的です。日蓮と真觀が雨雲を呼んでお互に靈力を競つた事等は面白いことと思はれます。

り黄黄より赤赤より紫に變り行く時ウオルグウオスは雲を稱して天國に到る梯子だと申しました。

雲は變化に富んでゐます。白雲、紫雲、瑞雲、亂雲、黒雲があります。紅の雲たなびかば空に樓の花を染め

の麓を友人と歩いてゐた時に丁度玉藻前の八尾の狐の如き雲が蒼空に跨つてゐるのです。

雲か山か呉か越か山陽は歌いました。東支那海に泛んで上陸を今か〜と待ちつゝ甲板に出た時や瀬

ゆるるや、あの河原で半九郎と云ひ合ふお染さ、いつたら何さ云へないわね〜半様御怪我はなかつたか。

うな雲。

綾羅縹風に靡々として流れ天女の舞を思はす雲。夏の夜眉墨の如き月にゆるくかゝる。Voisのやうな薄雲。

ある手紙から

魔生

(一九一九一八一五)

陰様おなつかしう御座います。お暑いにもお降りないことと思ひますわ。もうお休みでお歸りになつた

べて夢だと思ひますわ。ごうか過去は、思ひ出さないで下さいね。私は、苦しくてなりませんの。あなたも

此の頃は論文とかで、お忙しい時ぢやないの。此の夏はどこかへお出かけになりますの。一昨年の夏を、

實は、お目にかゝりたいと思つてゐたのが、ごうかその時が来たやうですの。今の私として、あなたに、

成田屋さんですものね。ごうでまた鳥邊山は？あの人のお染は、やつぱり、いゝでせう。早く二十一日

が来ればいゝと思つてゐますわ。あゝいゝのやうな男に逢つてゐました。いゝひながら、半九郎に眷着を見

これ拜みます、頼みます。ごうごう一度分別して仲直りして下さい。殿下で獨りで泣いてゐたら、誰

強さうなお侍が、優しういふて下された。」と云ふさ、

お母さまよろしく。ほんきに皆さまに、お目にか
る顔は、ありませんわ。
七月二十六日
小高のT子より

ある日こんな手紙を東京の家から轉送して来ました
私はその封袋の字を見たときは、その差出人を思ひ出
せませんでした。私が手紙の往復をする人は、極く僅
かなのです。それでですから大概は上書の字を見てその
人を思ひ出しますけれど、女は思はれない、しかしし
やさいい細い字で、裏には、ただT子生さだけしてあ
りましたこの手紙——日附も所書もない——は、私を
暫く迷はせました。今の私は女の手紙さへば、僅か
三人の女より受取るだけで、常に彼等はその性格通り
の字を書き、てきますから、すぐ知れますけれど、見覺
えのあるやうな、ないやうな字でしたら、暫く、じ
つと見つめてゐた後一種の恐怖と好奇心を感じなが
ら、——よく借金の催促や、ある女から恐喝的な手紙
を、受取ることもありますので——と同時に、何かし
らん楽しい期待を、心に享けながら、封を切りました。
封を切る前に、消印を見ましたが——こうするときは
私は常に、直感的にするのです——發信地は、判りま
せんでした。たゞ七月二十七日午前十時三十二時の
間に投函されたこの数字が、はつきり見えました。
私は初めの一行をよんだとき、T子から来たのだと小
聲で、しかし私の總身にひびいて、叫びました。あの
T子から手紙を受取る少しの期待も、ありませんでし
た。昨年の正月以後そんなことを、想つた事さへな
かつたのです。私が彼女に、最後に逢つたのは、大正七
年の一月六日でした。彼女は初めて島田に結つたとい
つて悦んでゐたときでした。しかしこの手紙を書いた

彼女は、靜かに睡つてゐる彼の愛兒の呼吸を筆の間に
く、聞かればならない境遇にあるのです。手紙の中
にある公子さといふのは、その愛兒でせう。公子に可愛
想だからさといつて、過去の總てを、忘れやうとして居
るのでせう。

私は、手紙を讀み了つて、寧ろ期待が——恐怖にし
る樂みにしろ——外れたので、淋しい笑を感じながら
すぐ封へ納めて了ひました。しかし次の瞬間には、過
去の幻影さ、彼女さといふものゝ、異様な悪感に打たれ
て、一字々々を讀み行く私を、見出しました。私は過
去を、深刻に頭に描いて居つたのでした。

私は、こゝにその過去を描きたいが爲に、この手紙
をかいたのでは、ありません。私は、常に過去を、忘
れやうと努めて居るので。充分に刹那を享樂したい
ために。彼女も過去を忘れやうとします。しかし彼
女は、それによつて少しも幸福は、感じて居ないでせ
う。只愛兒の爲にのみ忘れやうとして居るので。

T子は、多くの女のやうに役者にかたを入れる若い
女でした——今もさうでせう——小高島屋の松島が
きでした。私は、あの氣分劇の高島屋一座の芝居——
綺堂物——を尊ひ藝術として樂みましたが、松島好き
な彼女から更に、高島屋の芝居に對して、強烈な何も
のかを、與へられて居りました。私の頭は、左團次の
芝居——綺堂の脚本——から、離れた事はないのです。
それだけに、木挽町へ——今月は珍らしく歌舞伎座で
演つてゐますから——誘はれた、この手紙を見たとき
は、過去のT子を考へるよりも、あの島邊山心中の幕
から、左團次・松島・壽美藏・綺堂の脚本さといふやうに、
それからそれへ、聯想して急に成田屋のことが、か
いて見えたのでした。高島屋の芝居を、はなれて
獨り成田屋を描くことは、私には到底出来ないと思ひ

ますから、左團次・松島も書かればなりませんでせう。
しかし私は、その前に、このT子さといふ女を思ひ出
させて頂きたいのです。彼を描くとき、私は幸福と同
時に大きな苦惱を感じますけれど、T子は私の頭から
永劫に去り得ないものゝ一つですから。

私は、この手紙を讀みながら、彼女が現在の自分に
覺めて丁寧な物の言ひ方をしやうと努めながら過去の
彼に歸つてゐると思ひました。彼は、此の頃漸く淋し
かつた心から、はなれたさ、云ひますけれど、苦しい
餘りに、自己を偽つてゐる不幸な人間であると思ひま
した。彼女には、愛兒の靜かな眠も、純な笑も、泣聲
も總て不幸の源泉でありませう。永久に。

T子は東京のある豪商を父として、所謂下町風の娘
さして育つたのです。彼女には一人の幼い弟がありま
した。彼は下町風の娘に有り勝ちな早熟の女でありま
したけれど、一人娘のためか、非常に子供らしい所も
ありました。私が始めてT子に逢つたのは、彼が十七
の夏でした。さうしてT子が二十の昨年一月六日に
逢つたのが、最後でした。彼女は、異性に對して、冷
贈さといひませうか。臆病でないさ云ひませうか、落着
いた態度で話してゐました。彼にはお轉婆のやうな、
流轉女のやうな氣分もありました。當時の私は、潤一
郎の小説に、耽つてゐましたので彼女の性格が、面白
く見えたのです。私は彼女に對しても、エビキリアン
であつたのです。彼はそれを非常に悦びました。私は彼
に心もゆるし、彼は私に心も總てを、ゆるして呉れま
した。彼女は私を待つことになりました。彼の両親は
私を、しばしば迎へてくれました。休みのときだけ東
京へかへつた私は、當時一方に偏したエビキリアン
振つた生活を、續けて居りましたけれど、彼等は深く
知りませんでした。或はこの點で私は、T子に全く思

實でなかつたとも云へませうが、當時の私の彼女への
氣分が、また、彼女の私への氣分が、純の戀愛さとも
思ひます。——私には戀愛さといふものは、まだ徹底さ
れないのです。永久に私の求めた戀愛はないやうな氣
がして。

T子は松島——高島屋の芝居——を好きました。彼
女は、久松町へ行つても樂屋や奈落の松島を話さす
るのが樂しかつたのです。總ての座の芝居を見るだけ
に、所謂お芝居の話は、相當に知つて居りましたが、
深み——藝術的意識——は、殆ど缺いて居りました。

彼は松島がいきのあまりに、彼の帯には、葛が染めて
ありました。彼は大きな高模様の敷蒲團を用ひました。
頭には常に、葛の簪が見えました。手拭にも、ハンカ
チにも、財布にも葛がついてゐました。財布の中には、
寫眞が常にありました。私は彼女が、松島
から貰つたさ云ふ手紙を見た事も、ありません。

さにかく、T子は、かたを、入れて居りました。彼
は十八で女學校を、出ましたが、出てからは更に、芝
居に心をむけて居りました。彼は、それ以上には、深
みへ入りませんでした。彼は、A子さんが、あの人を
買つたさといつて笑つて居りました。外で車につて行
く、あの人に逢つたから、お辭儀をしたら、笑つてお
辭儀を、してくれたなと云つて、子供らしい笑を見
せる彼を見たこともありません。——私は娘や相當の
年配の女が、俳優にかたを入れたり、役者買をしたり
するあの情調を、面白く見て居ります。昔からのお芝
居さといふものを聯想して。

私は彼女の芝居熱に動かされて、同じ高島屋の芝居
でも、一月の中に二度三度と、見に行くやうになつた
のに、氣がついたときには、あの優しい成田屋壽美藏
の藝風を求めてゐました。左團次・松島を、はなれて

彼を求めるときは、全くインポシブルでせう。私は、
松島の夫である彼を求めようになつたのは、全く
T子から、何物か強い力を與へられた結果だといふこ
とを、否定することは、できません。私はT子の母の
前で彼女と互に、壽美藏と松島になりまして、その
臺辭を、言ひ交したことを覚えてゐます。彼成田屋が
勤める役々の人物は、私自己の性質とは相違してゐる
のですが、どうゆうものか、今でも共鳴せずには、居
られないのです。

T子の父は一昨年の晩夏に、亡くなりました。する
と幼い一人の弟も、父の後を追つたのです。彼女は、
父の死、弟の死によつて、淋しい人間になりましたが、
その寂しさ、苦しみに對して、私との結婚を、せいた
のでした。私はその時のことを、かくつもりは、あり
ません。

一昨年の暮に私は、彼女からも、彼の母からも、最
後の手紙を受取りました。彼女の周圍には、可成の動
搖が、ありました。しかし彼はその暮には、初めて島
田を結ばされたのでした。私はその冬は、最早歸る必
要もなくなつたので、或る地で放縱な生活に、酔つて
居りましたが、彼女の母の頼によつて、突然正月の五
日に歸つたことを記憶して居ります。

私には、敗者の悲哀も、悔みも、ありませんでした。
私は、これを、受けるにはあまりに、放縱でありまし
たから、これを考へるに、大きな悔が常に、ありまし
たから、事は容易に、解決されました。

私は最後に逢つた時に、彼女に話した通りに、彼を
忘れませんでした。彼は女だけに、過去を忘れ得ないのでせ
う。彼が芝居の話さきよひさといつて、この手紙を、
かいた心の中には、あまりに、苦しい爲め私を求めた
のではないでせうか。私は、永久に不幸な人さとしてT子

を、憐んでやりませう。

私は、彼に逢つてよいか、悪いか、彼さ同じやうに、
そんなことは考へません。二十一日には木挽町へ行か
ればなりません。私はT子と木挽町へ行くことを、家
に告げる要はないでせう。私の周圍の者は、總てが、
私さといふものを、理解してくれないものばかりですか
ら。(つよく)

〇兄へお断り。實は、事の順序として、藝術即ち人
間が、人間即ち藝術か、さといふ題で先輩のものをつら
れるつもりでしたが夏のだるさに、貰つてペンが抄り
ませんでした——書きかけてゐた或る日一人の友がき
て、夏だものれさ云つてくれました。急にその時は人
間らしい氣持になりました——そこへ、この不思議な
手紙が、來ましたので、急に、こんなことをかいて見
ました。今夜行で東京へかへらなければならぬ私は、
實は、之を今朝から書き初めたのです。ために、かき
たいと思つた主要な部分には、ペンも運ばれず、し
まひました。必ず次號へは成田屋を御吹聴させよう。
どんなものが、紙上を拜借できて、兄の御目にさまれ
ば、幸さ思ひます。(十五日午後三時、浮世小路の亭
にて)

生れ出づるの神秘

武庫 山人

人々よ此事に痛くも驚け
何事ぞ此大千世界に我れ産れ生ける。
仰げば日月星辰の燃たるあり
伏して品類の盛なるを觀る。
我れ一度眼を閉れば森羅
我が心鏡に來り映す 則ち
一念寂たり萬象微動せず。
我がこゝろ雲霧の表に聳え
我がおもひ深海の底に徹す。
我れ力を込めて大地を踏めば
萬感一時に湧出して我れ
自らの言はむとする所を知らず。
我れ力を込めて虚空を打てば
喝然と音して天海爲に
壞くるゝやと覺ゆ。
我れ力を込めて大喝獅子吼すれば
天柱地軸洞然として共鳴す。
無極限の神秘の暗黒の中に
我れ胎卵たりし時より
未だ會て睡らざりし。
無極限の神秘の暗黒の中に

胎盤に圍はれ羊水の上に
流動せし時

大能者「光あれ」と言ひ給ひければ
我が靈の眼開かれ
自由の叡智に躍りぬ。
我れは看たり宇宙の進展開化を。
我れは聴けり絶妙の
宇宙大生命の進行曲を。

元始に「神」天地を造り給ひぬ。
地は定形なく曠空くして
黒暗淵の面にありて寒冷なりき。
神—生命—創造—過程—文化。
神の靈水の面を覆ひたりき。
神光あれと言ひ給ひければ
エーテル界に歪を生じ
イオンとイオンと衝突し
量子と量子と融結し
エレクトロンは摩擦し
陽電氣核を中心として
系統旋回運動を起しぬ。
光ありき：我が爲に。
我が爲に星雲は軌道を離れざりき。
團々たる火炎瓦斯四散して
太陽系を造り
流星彗星來り朝宗す。

地球上に水蒸氣立籠り
濛雨となりては又熱き土に觸れ
水蒸氣となる。
時を経て地層は我が上に積まれたり
誠や地層は自然の自叙傳なり
聽て生命の飛躍、突進的活動は
其の純粹持續の中に
個的生命を派生しぬ 此の
原生生物は植物界動物界を
細胞と進化を経て現出し
進化中の突然變異は
二足歩行の原始人を造りぬ。
廣大なる植生は我れに滋養を供せり。
百大なる怪獸は我れを其の口に咬へ
注意を以て我れを育めり。
因果の系列を斷ち
新しき斷面に永久に戰ふ自由意思
を以て文化價値を印刻する爲めに
原人イラン高原に現はれてより
二十五萬年。

曖昧の混濁を去りて
文化史の幕を切り落してより
一萬年。
血と涙と生命とを以て
築き上げし文化生命の歴史。
東進しては印度、支那文明となり

西漸してはエヂプト・バビロン
アッシリア・ギリシヤ・ローマ・
サラセンの文化を現じ
絢爛たる南歐の文化剛健の北歐文化
ブリテンの統合文化は
ブルマス兄弟の拓きし
大アメリカの草原に咲く。
西漸のものと東進のものと會融し
芙蓉嶽の聳ゆる處
萬朶の櫻爛たる地
太平洋の青波碎くる長汀
第三項の新文化の醞釀せられんする時
無限の空間と億々萬年の時間
とを喰ひ破りて我れ世死末
太陽の光を見ることゝなりぬ。

理想と現實の隔離
創造の個人性と永久の社會性の分立
少數特權階級の專横
無自覺なる衆愚の暴慢
之等皆ニイチエズムより來る。
誤れる自我利主義
意力主義より來るなり。
人格と人格との接觸燃焼
生命の最高アブリオリたる

愛を排斥して 全ての
没人格・非文化・不自由あり
五千三百萬人を動員し
七百萬四千人を屠り
五百十二萬人を不具たらしめん爲
參千百拾貳億圓を費せし
歐洲戰亂生命の濫費。
逆文化・非文化!!!
借問す天行健なりや

我れは太陽と共に道はむ
價値の轉換眞文化生命の讚美
エホバの神は死せず
愛によりて勞し不斷に
絶對者は進軍しつゝあり
古昔預言者エレミヤ・イザヤ
笛を吹き悲歌を奏して曰ふ
神に歸れ宇宙—愛と正義に。

新しき天と新しき地
愛と自由と正義と公平
其の爲には低きものは
高く揚げられねばならぬ。
惱めるものゝ涙は拭はれ
餓えたるものゝ空腹は
充たされなければならぬ。

解放—自由と責任を透して
女教師も交換手も貞淑なる賢母良妻も
可憐なる女工もつゝましやかな乙女も
いとしい多くの未亡人も
小作人も樵夫も石炭坑夫も
工場労働者も沖仲仕も
鐵道のポイントマンも
踏切番人も車掌も
解放せられなければならぬ。
兒童の人格青年の主張は
次のゼネレーションは
尊重せられなければならぬ。
特殊部落や貧民や孤兒は
非人道的の窮狀より救濟せられ
出獄者や逃亡者や犯罪性の者は
慰められ指導せられねばならぬ。
教育者・言論家・學生を
頑冥固陋の縛より解放せよ。
貴族をも其の没人格的の
自尊より放て。
民衆を無自覺的暗示的狂暴より
解放し敎養せよ。

人格と愛と自由とへの歸趨。
宗教・教育・政治・生活も
自我の認識・倫理・藝術生活も

法律・經濟生活も所在學問も
慾望の整理と文化生命の創造に
飛躍しなければならぬ。

誤れる角度を以て進む物質的機械文明
殘虐・貪民・戰爭
惡念・姦淫・苟合・凶殺・盜竊・貪婪・
惡匿・詭譎・好色・嫉妬・諂諂・驕傲・
不義・狂妄・暴很・忌侮・壓迫・爭鬪・
刻薄・讒害・狎侮・矜夸・譏詐・不忠・
不孝・頑梗・背約・不情・不慈・偶像・
巫術・仇恨・念怒・異端・娼妓・醉蕩・
之等の罪は煉獄に於て煉淨せられ
其の罪の組織・制度は血涙もて
新しき歡喜をもて
改造せられなければならぬ。

充實・深化・發展せる自由の
個人格の別立・相互扶助
愛と責任と秩序を透し、
生産(交換價值・文化の開極觀念として
の貨幣價值の増殖に非ずして
宇宙的生命文化價值創造の爲
又は其の大系列の特殊分派の活動)
及勞働に於て分業し
消費享樂に於て共同し

宇宙生命の大オーケストラに
溶け込み合つたソリダリチー。
生命の奔流と階級の脱破
人格の彫刻と愛の藝術。

「死の軌道を辿る偶像」の破壊
愛と健實なる思想と自由の建設
徹底せる論理と高遠なる理想の世界
唯物主義に非ず唯心主義の世界
マルクス・アダムスミスに非ずラスキ
ンなり
ダルウキン・ハックスレー・
の生存競争弱肉強食に非ず
ドラモンドの愛
クロポトキンの相互扶助なり
ヘッケルに非ずしてルキアガシの
發見せる五官を超越せる
第六官・第七官の世界
第五元・第十元を越えて
幾百黨を加へたる高次の
立體的世界。
社會問題・婦人問題・人種問題は
結局人格の問題なり—解決は
人格・自由・愛の合理的組織化。
測り知るべからざる智と

久遠原始の愛は我れを慈しむ。
すべての勢力は我れを完成し
我れを樂ます爲に使はれたり。
而して今此所に在て
強健なる靈を以て立つなり。
我れは朽ちざる理想の燈火を看つむ
生命の瀑流は我を滲透して組織化す。
(一九一八—二日武庫人)
(引用参照せしものは聖書・オキットマンの詩等
なり)

「夜」にまじれる灯

(散文詩) 澄 銀 子

そは何日の事にありしか、
さだかならぬ幼き追憶の、捕へんとして
されどいと澹けれど
「夜」にまじれる一點の灯のなつかしさ。
ひろき野なりき。
しろき月光のながれさやけき青草の上、
われひとり
何者かありて力強き壓迫を強ふるが如き
いらだゝしさを
静に抱きつゝ、睡を上げにき。
涯なき野の哀しくもありしかな。

夜霧あまくゆめをしのびて麓に垂れし山
あり
しげき葉をつゝむ桑の林にはちらひを含
む夏の花
汝れが白き花瓣に這ひすがる「青」のゆら
ぎよ水無月
あはれ、へだてられ行く忘却のやるせな
さを

白き花のすがたにつながるゝ幼なき夏の
「夜」にやありけむ。
何故にわが瞳は涙もてうるほひしか。
「運命」の黙示を相せる樞の下かげの家
空蒼くして白雲のよるべなき愁ひにひ々
く高原、
わが窓は明かなりし
わが物語は眞しかりし
何故にわが瞳は涙もてうるほひしか。
ふりかへらざらむ
そはあまりにも無慘なる陰影なれば。
そはあまりにも幼きものにふさはしから
ぬ印象なれば。
われは野中にひとり想ひぬ。
かなしき肉親の争鬪よりのがれ
故もなく滅び明く「愛」の執着の煩はしさ
に
草青める水無月

行方もなく迷ひ出でにし高原の夜のさす
らひを。

「狂亂」をしのぶ母の面
更くる灯はやつれし頬にうつらゝとな
がれ漂ひ
失はれたる意識の奥に
冷けき呪咀の悲しみは溢れ出でたり。

ひそかにのがれぬる發奮の名殘淋しく
伏す青草の匂ひと醒め行く佗びしさに
涙す、夜霧遠き月光の野
静かなり、ひたり沈む「夜」は心ゆく迄静
かなり。

時は移りぬ
流れゆくゆるき夜風に佗しきは生く。

遠野の涯の
杜の蔭なる印象の棲家よ
洩れ出づる一點の灯のなつかしさ
「夜」にまじれる一點の灯は消されむとし
て猶もいろへり。

行方なき逃亡の影のうすれ行く頃
せまり來る恐怖に憐れ幼き心はおのゝき

別れけむ寂寥を今し想ひ深く刻みつゝ、
ながるゝ「時」を茫然としのびぬれ。
風なかりし水無月
そはいつの事にありしか
さだかならぬ幼き追憶の捕へんとしてさ
れどいと澹けれど
「夜」にまじれる一點の灯のなつかしさ。
野は涯なく曠かりしかな。
しろき月光の搖曳と、夜霧の浩蕩と
しげき桑の林に「青」のかげろふ白き花び
らの
あるかなきかの呼吸のしばし
あはれ、おもひ出の高原の野は涯もなく
ひろかりしかな。(完)

聖日他二つ

母邊 美安

日曜は
あらしのごと
襲ひきぬ。

ある快樂のこと

魂のいれものに
瑕が入り

私は奇妙な歌をうたつてゐる。

私にはあるけらく
とぐるをまいて

終日離れず。

こゝは聖寮、
空くもり窓近い雨のころ

一點を擬視して、

うす濁る壁の Animaliom を

なほもみつめて

あるブレーヂェアに心にじむ。

あゝ鏡、
死魚の眼のごと
泥まみれめがねの下に
あざ笑ふ。

たゞ仄黄いろき鼻柱

たとへもなくつぶれて

あはれ制禁の烟草のけぶり

ほうべたを傳ひ

メニスクにまつはり

ひたひにおどる。青黒く

たえまなく

眼はにぐる。

限なき Baudlaire の世界を喜ぶ
Baudlaide のひたいは禿げて。

自畫像のせゝら笑ひ、
鏡のつくる歡喜こそ。

とみかうみ、おそれふるえて

禁斷のたばこの力、

かゝみみて吸ふ

聖寮の Vagabond。

どうしてきづをなほしたら
よいのだらうと泣いて見る。

おびやかさる

土曜日のひるのこと、
ひとり隠れてひみつのけらく
眼たゆらぎ部屋中をうごめき廻る。
夏の外光、しづかなる
紫のけぶりのあゆみ。
何とも云へん心持かな。

さあれベルなるとき
昂りゆく心

黒々と六月たばこの死骸みて
齒の根ぶつかり
ふるえく／＼て机にすはる。

おびやかされた、おびやかされた。
ひとり離れてつみ人のごとく
おびやかされた。

孟夏偷隠偶唸

綠琴 竹末 兼香

雨浙瀝兮風蕭蕭 渾山一碧兩玄鳥
且體愁殺世人蒙 寸鏡冽澄藏蛟龍
水中光散貼浮萍 映嫁清流照暗冥
夏夜涼風雲外月 滿塘兒女拂天星
誰知秋葉山颯棲 群魚鱗窺動靜
舉世滔滔輕薄風 東溟人在期廓清
青山碧水月悠悠 蟬韻蛩鳴喧又囂
一寸寶鏡三尺劍 截斷俗流嘯清風
閑坐獨吟古松陰 一陣清風拂襟襟
孰是歌聲孰天籟 誰知半日寂寥心
一聲啼破蜀魂飛 青嶂人家宿翠微
寂寥遠樹啼鶉急 竹外禪房景轉幽
樹林蟬韻徹簾櫳 蒸氣煩襟日午風
無限蒼天雲影外 兩三支鳥掠晴空
天空海濶望無窮 玄海鉅濤氣自豪
雄壯以何儔此景 鯤飛鯨躍南溟中
池塘雨霽晚涼催 煙月當欄夜色開
水氣荷香清若許 一宵間却盡樓臺

夏 草

熊 内 人

夕顔や蓋取りし時の風呂の湯氣
別荘人ひそに夕潮浴び去れり
青簾の裾の猫にある女の眼
青簾透きて日ざしや朝疊
土用浪に乗る鱗群れて搏つ如し
人食ふ時鱗覆へり土用浪
夏草になぐる蝶や二つこなりぬ
夏草にまざ／＼蛇の死様かな
舵取るや海月流れて爛れたる
夜もすがら海月ふわ／＼さありぬべし
マニラへ行きし友Dの尺八を
携へるま云ひ居たりしに 二句
海月流るや月に興遣る笛あらん
海月浮いて笛吹けば海潮の如し
崖の褶に尾振る鳥消え苔の花
金龜子落ち猛り居るよ苔の花
池の蔭になぐれやんまや日の盛
縄れ損ねきやんま高飛ぶ日の盛
日盛やんま尾つけて菱に影
日盛の濁りに田鮒まぎれ去る
炎天の合歡の細葉へ埃かな
刈草をく／＼踏まへつ蝸を打つ
黍如や牛の眼に蝸群れ暮るゝ
蝸に掻きし汗の胸赤く草實附く
池の面へ打水とよき釣葱
晝顔に蝸を落してぬらくれる
青ざしなこぼしつ曝書主かな

團扇鈔

石 鳥

葉叢に金龜子がる垂みかな
葉の蔭に大瓜見出で露涼し
(七月收穫の中より)
涼舟や團扇忘れて上陸りけり
金龜飛ぶや蚊早提灯の暗き中
げら／＼や團扇を越えてそこ這へり
壁の玻璃にいつまでひたご繭蛾哉
風仙花の夕闇を蛾やつぎ／＼に
擲てば闇に音あり灯取蟲
交み蛾の死せるが如し雨後の潺
談やめて暫く追へり蛾の行衛
掃く程の灯取蟲や夜を徹し
闇に動く團扇を顔と何れ白き
大團扇の風なま温るき理髮床
景品の團扇腰なし店開き
耽々猫の眼や灯取蟲
蛾一匹女ばかりの騒かな
蚊帳を出て桑刻む音灯取蟲
妹に會ひ所在なき時の團扇かな
隠痛く老優の膝に團扇かな
團扇遂に池に吹かれたり鯉跳ぬる
組板に桑の葉汁よ灯取蟲
新聞にこゝみ物食ふ灯取蟲

文 造

不 泥

豊の蛾の居所見たり病者かな
繪團扇や幕間の廊下灯したり

愚佛

去來して障子たきぬ灯取盡
山宿の灯暗くして群る灯取盡
團扇造る家廣うして灯かすか

九茂茅

隣室騒がし灯の蟲燈打ちて落つ
谷向ふの窓小さし人團扇使ふ
粉を散らす蛾をすまじく擲ちにけり
句座の人に團扇くばりて童子去る
法話間の央の二た灯の大蛾かな
二た間の牛にある一燈や灯取盡
野圃出る人の腰なる團扇かな

諸報

摩耶山合宿

三尾忠

忠實なる自己内省者は、人格の向上の必要を認め
だらう。又人格向上即ち修養が内的個人的なことを
も認めるであらう。然るに、此の人々の中にも、外的
團體的行爲が内的個人的修養に及ばず効果を疑ふ
者があるけれども、冷い推理の結論が自己を激越せし
むるに足らない時には、外的力を借るより外に道はな
い。生理が心理に及ぼす力を待つより外に道はない。

修養は感激と履行との反復である。然るに感激は冷め
易く履行は怠り易い、然し人が相集り相励ます
時には優すべからざる空気を作る。團體は自ら形式を
生ずる。又團體のさる手段は個人のさる手段と相反す
ることはないが相違な事ばあり得る。或人は修養と云
ふ言葉を好まない。修養とは古い道學先生の説く所
あり、突飛な行爲のみをすることであるを解する。頗る
迷惑な誤解である。多くの人の放つ皮肉の矢は悉く
を外れてゐる。

我々約十名の同志は六月二十九日より七月六日迄摩
耶山住職の宅の見晴しよい三階で團體生活を送つた。
宿める準備が整つてゐる所だから、我々が持参すべ
きものは一枚の浴衣と二三の書物である。

朝は夙起きて海抜二千八百餘尺の摩耶山頂に立
つ。下界は尙ほ深い眠りにある時黄金の日の雲の端に
浮ぶ。校歌を歌ひ詩を吟する間に、日は次第に上つて
まじゆい白銀の光りを投げける。此の光りの波動の中
で草も木も土も其の強い生命力を躍動さす。精神爽快、
意氣軒昂、人無くして何の天ぞ人無くして何の地ぞの
慨が起る。正の爲に義の爲に、當るものを碎き破るもの
を破るの勇が湧く。熱情の紅葉照り合せて、雪の如
く清い若人の掌に、一握の活火を四方に放ち、眠る兄
弟を覺醒し、墮ちる同胞を向上せしめよとの使命を聞
く。

食慾の増すは無論である。従つて精進料理の勝に向
ふことは樂しみの一つである。空腹は最良の料理人
である。下り四十分上り五十分の山道は人の恐るゝ所
であるが、數人共に歩けば話に心がまぎれる。數重なれ
ば道は近くなる。心愉快なれば手足は軽い。湯に汗流
して手摺による夕ば、忘れ難い趣の一つである。利も
無く損もない。善も無く悪も無い。只緊張した餘感が

悚伏せしめ思潮の大渦亂は文化生活の歸趨に迷はし
む此の時に當りて我部同人温籍たる新文化を以て中國
の山野を潤ふし新文化創成世界の改造に切し人心に其
の當に歸一すべき所を知らしむとす
是飽迄も現實に即し、而かも現實に捕はれず、現實を
喰破り突抜けて理想の光明界空高く飛翔せむとす、
我が講演部同人のカレッジエクステンションに對する
意氣であり其の氣魄正に瀬戸の海潮を吞吐するにさも
似たり。

七月十六日
岡山市
太陽の直射強きも海風の稍々涼味を帯ぶるあり午前
九時四十五分三宮發にて西下。一蓑一笠の舌栗毛の事
さて用意萬端簡單を主とす蓋し時維れアモ暮しの時代
なればである。

本二鶴野武雄君(支那子)本三武幸太郎君(進化子)次
に本三益田乾次郎君(傘地借子)大きな袋を肩にかけて
馳せ加はる本三金丸武右衛門君(金右衛門)と共に本一
三輪和二郎君の見送りを感謝して乗車せんとするに、
本三谷田義一君(黄金子)が未だ來ない、一同惑々たる
折柄俥を騙つて……遅かりし黄金子、南無三乘損じ
たりと思ひきに神戸驛に至り、何喰はぬ顔にて「last
time」。

健康の都合にて巡回講演に加はり得ざる門間堅一君
と姫路迄車を同ふした。依例支那子と金右衛門との淨
瑠璃、琵琶あり、其の巧拙に到りては余輩之を知らざ
るなりである。どうせ車中でうなるんだもの。
人物月旦が始つた、アラ探しがあつた、意地の悪い披露
であるが巡回講演の交遊に關して面白いことがある。
岡山山の山本定治郎氏より「愈々十五日に開くか」その間

ある。忍べる働ける我々のみが此處に於てのみ得られ
る慰藉である。
千古の杉林の夜は静かである。我が心は肉に嘸き、
自然の神祕は我を包む、室内ではランプの下で緊張し
た談論に花が咲いてゐる。かくて山上の一週間清く
導く樂い思出の數々を残して過ぎた。
現在の修養團神高商支部なるものが完全なる組織を
有してゐると思はない。又團員の悉くが熱心な求道
者であると思はない。けれども我々には團體の効果を
信ずる。不完全な組織をより完全に改め、理想あり意
氣のある多くの同志を糾合する努力を惜しまない。
(七、八)

庭球部

第一回關西實業團
庭球優勝大會

六月二十九日日本校コートに於て開催、其の經過次の
如し。

- ◆第一回戦
1 川口商會三 ○東京海上火災
2 宮部末高三 ○神戸製鋼所
3 川崎銀行三 一鐘淵紡績
4 神戸三井物産三 二ダテロツツ會社
5 岩崎商會三 一伊藤忠神戸支店
6 住友銀行三 三京都鐘紡支店
7 播磨ヘルド三 一八木商店
8 播磨ヘルド三 ○協信洋行
9 浪速紡績一 三鈴木商店
10 山三商會三 一兵庫川崎造船所
11 山口銀行三 三増田屋
12 富田工業所三 二川崎造船所
13 大阪増田商會一 三三菱造船所

合せがあつた、進化子は彼に依頼するに「都合により
十六日にした」その遺言の事を以てした、彼革命的の
馳走を以て郵便局に到り、用を済まして歸途不圖失策
を思出した、折角の骨折十五日にするに書誤つたの
で係員に訂正を頼み大目玉を喰はされた。
又の日本山本氏より時間の開合せがあつた時、傘地借
子返電を拜承して局に走る、進化子が餘りに番地の記
憶を確め置きし爲か町の名を忘れ、茫然自失一時間を
局にて費し頭の中を探つて見たが判らず、歸途後漸く
考へ付き二度局に到れば此度は受取人の名を忘れた、
英語の辭書にも西語の文法書索引にもない……會報が
救済主。副部長須藤教授は灘驛より乗られてゐたのが
後から判る。

午後二時十八分岡山着、卒業生尾谷半三郎氏、山本
定治郎氏、佐藤清七郎氏及び本二笠井幸太郎君の出迎
へを受け、後、光燿の夕陽を浴びた後樂園を見物し、
園内にて開かれたる東京神戸同窓會共催の歡迎會に招
待せらる。

前記出迎へ下されし諸氏の外に星島儀兵衛氏、木谷
勝郎氏及び三島末之助氏の卒業生諸兄と歸省中の千輪
教授と晚餐を共にす談はアモクラシの思潮の普及、
大本教に又樂しき筒井生活の懷舊に移り行く、例の如
く須藤教授の素破坂、教授が母校にて専心勉學せられ
し時——勤勉力行せられしものを見做す——カラーに
窮して一策を案じ、ダブルカラーを切つて使用せられ
た由。因に尾谷氏は岡山實業界政治界に於て新進氣鋭
の闘士なる不而已、金物製造販賣にてシコタマ餅けら
れたと聞く、成程金は金を産むものか?
歡談に時の移るを知らなかつたが總て開會の時刻も
迫ることにて辭して會場なる岡山商業會議所に赴く。
◆第一回 岡山商業會議所に於て

「濁流氾濫して中國の田園蕪す自然の猛威は人々を

講演部

山陽舌栗毛の記

武庫山人

斯くて最後に残れるは神戸三井物産、東洋紡績の二
なり双方後衛の技倆相伯仲し熱球蹴球は前衛をさけて
自在に飛び觀衆思はず汗を握る然れども東紡方前衛大
に振ひ終に勝利の榮冠を得たり、即ち

- ◆最優勝戦
神戸三井物産(松野二) 三東洋紡績(鳥山)
神戶三井物産(藤澤) 三東洋紡績(矢田部)

- 1 川口商會三 二河島商會
2 三菱造船所三 三東洋紡績
3 川崎銀行三 三神戸三井物産
4 宮部末高三 一鈴木商店
5 鐘紡京都支店三 一萬俵商店
6 富田工業所一 三増田屋
7 播磨ヘルド三 一山三商會
8 岩崎商會三 一白石商會

午後六時無事終了せり。(OK生)

(午後八時)

- 一、開會の辭 鶴野 武雄君
- 一、對支政策に就いて 谷田 義一君
- 一、近世に於ける資本主義の發達と分配學說批判 武 幸太郎君
- 一、現代労働運動の經濟思想的背景 益田乾次郎君
- 一、貨幣と物價に就いて 千輪 教授
- 一、自由に就いて 千輪 教授

「デモクラシー」解放、自由の盛に唱導せらるゝのは自由の本質に就いて明確なる觀念を持つことは最も肝要な事である、自由は放恣に非ず、社會道徳規範に従ひ、而かも之を越脱して束縛を感じざるに到るに在り」

穩健なる思想である、併し乍ら自由は自我の自律を豫想する、自らなる批判と法則がなければ全きものに非ざるを知るのである、Wagner 言ありて曰く、

“Obedience to Law is Liberty”

一、對獨講和に就いて 須藤 教授

教授の場を踏んだ悠々たる論調で地圖を掲げて卓板なる講和觀があつた、獨逸論があつた、蒸暑いにも拘らず聴衆百有餘熱心に諄聽してゐた。

一、閉會の辭 黒田書記長

演題には「」が多い、就いては第一回の講演會に就いて概評を試みたいが、實は其の前晩は同所に於て大阪高商の通俗講演があり、曩に帝大の講演會があつたので成功を怪しく思つた、併し乍ら大成功であつた、「今夜のこそ眞物の講演だ昨夜の如きことはお話しにならない程段が高い」と二三人のものは語り合ふを聞きしはよも風聲には非ざるべし。

註一、岡山後樂園は先憂後樂より出づと云ふ、是れテモクラシーの權化なり、とは千輪教授の言であ

も細き横木の上に立つを以て支那子に力込めて椅子を安定せしむ、好漢憐むべし支那子椅子より手を離す、無心なる自然法は重心不安定の傘地借子に作用して彼モンドリ打つて宙返りを演じて墮上り落つ。衆呵々大笑拍手急散の如くあつた。

註、曾て辯士の名を嫌ひ出演者又は登壇者を以て之に代へむとせしことあり彼は正に出演者登壇者たり。

須藤教授の講演は深大の印象を與へたが同日千輪教授が急病にて講演せられなかつたことは萬々遺憾である。

是より先進化子及び金右衛門兩人は笠岡に先發し途中待ち設けし本二白山源二郎君(喝破子)と一緒に笠岡商業よりの出迎を受けて旅館新常に入る、笠岡商業學校長長屋庄三郎氏の訪問あり、笠岡にては社會問題講演會この大廣告あり、又東西屋を以て講演會を振出す、甚だ珍奇の觀をなす。

倉敷より歸る鶴野君を除き、本隊は後れ馳せに着笠。

- ◆第三回 笠岡教會に於て (午後八時より)
- 社會問題研究
- 一、開會の辭 白山源三郎君
- 一、序論 人類社會に於ける營利慾の地位 武 幸太郎君
- 二、本論 我國の社會問題及社會政策 金丸武右衛門君
- 三、結論 國民の覺悟 久留島御調郡長

聽衆三百有餘堂に溢れんぞす、喝破子「河童子」は社會問題を所在人事象の根本たる營利慾の方面より研究をなす、誠に社會問題は人心の更新によりて解決せらるる言へる河上博士の言甚だ宜し。進化子は歐洲戰亂後新團體主義の勃興より諸社會問題を培し來り、殊

る、テモクラシーとはそんなに天下りのものと観念せられてゐない。

註二、須藤教授の學校の廣告は何時も乍ら鮮かなものであるが到る處でやられるのは同窓生に對する商大基金申込勸誘の如くに少々當てられる。

註三、同教授の獨逸論但し獨逸は同一に作る、獨逸論畢竟同一論に非ざる無きや如何。

閉會後町を散策して千輪教授に別れ旅館吉原屋に歸れば十二時。

七月十七日

一、倉敷町

一、笠岡町

昨夜夜更かしたことを以て、皆睡眠不足の佛頂面してゐる、金右衛門の如きは漸く睡りに入つた處を武庫山人事進化子の駄洒落の爲に目を醒され、今朝方は非常に怨言を連發してゐた。併しかつてはあるまじきメネジャーたる進化子一同を擲き起して午前九時〇八分にて倉敷町に向つた、倉敷に着けば卒業生大石俊夫氏の案内にて旅館に入る。

倉敷町長たり青年團長たり又兼て倉紡の支配人たる原澄次氏を始め、倉敷商業學校長の訪問を受け饗應に預る。

所聞倉敷は岡山縣の百萬長者にして新進實業家たる大原孫三郎氏が東西兩都の名士を屢々招待して、一は自己修養の爲め、又雇員及び一般町民の爲に講演會を開かれ俗に所謂「耳が肥えてゐる」の事であるからメネジャー首尾の程を些か心勞しつゝあつた。談は社會問題から大原氏經營の社會問題研究所の事、毎月一回米田庄太郎氏の講演のある事、神戸高商昇格問題であつた、時に席に待する美形二人あり、進化子やなら手にせるコップを差延べてサイダーを求む、可及的多量に預る。

一、對獨講和に就いて 須藤 教授

閉會後打寄りて海岸を散步す、涼風徐るに來り吾人の袂を拂ふ、一日の奮闘を慰安して餘りあり。進化子、喝破子を誘ひ須藤教授と尙ほ議論を戦はす。歸れば傘地借子、黄金子の校歌合唱あり、愛らしきものかな。

七月十八日

一、尾道市

水泳教練に多忙なる喝破子と袂を分ちて午前八時五十四分笠岡發途中松永驛に到る頃進化子洪水後の田圃を見やりて感慨轉た禁じ難きものあるが如し、彼こそは過ぐる日巡回講演の交遊に西下せし時不圖も暴雨洪水に遭遇して危険なる鐵橋を渡り、松永、尾道間を徒歩し船によつて宇品に到り、終列車にて廣島に着する頃、混沌たる廣島に交通通信機關、電燈、水道、瓦斯等を水の爲に奪はれたるに會して具さに困難を嘗めしを回想しつゝあり。

着尾すれば卒業生福田忠三郎氏の驕頭にあるあり、導かれて鮎水館に入り、暑さに堪え得ずして須藤教授、福田氏、進化子、傘地借子、扁舟を旅館前に浮べ四町離れたる向島に達す、潮流激しく傘地借子あは押流されむさして助を呼ぶ。

午後は谷田黄金子の姉婿に當る人にて御調郡長久留島新司氏に招ぜられ、ランチに乗じて屹居たる市の後背を擁する翠巒の丘を觀つゝ外洋に出て向島の海水浴場に遊ぶ。碧海波靜かにして偏雲、薄雲の遙かにエーテル界をかすめて通り行くあり、浴衣の人々に歌こ

にまでコップを斜めにして思ひの儘に注がせむるに、かれ齋東野人禮に放はざる爲めにか進化子の意を知らず、まだ瑠璃盃に充たざるに手を止めて二人暫し黙々然たり、進化子尙ほ酒ならぬ縁の水を促す儘にけれ漸く了解せるものゝ如し、即ち彼方を見れば黄金子の啞然たるあり、此方に控えたる傘地借子の嫉視轉た感々たるありき。

◆第二回 倉敷商業學校に於て (午後一時)

- 一、開會の辭 武 幸太郎君
- 一、國民經濟上に於ける金貨の意義 益田乾次郎君
- 一、平和來と我對支政策 鶴野 武雄君
- 一、通貨問題 谷田 義一君
- 一、對獨講和 須藤 教授
- 一、閉會の辭 須藤 教授

倉敷に着いてから急に講演することとなつて Ready made で十五分講演を行つた。

一、平和來と我對支政策 鶴野 武雄君

是れ當日の呼出物として期待せられてゐた、支那式の演説であつた、支那を一嚙下する底の元氣のなかりしを憾みとする。

一、資の研究 谷田 義一君

一、通貨問題 益田乾次郎君

通貨問題は現今財政問題であり且つ又社會問題である、傘地借子得意氣に述べ立つる所原稿の道筋を通過して脱線せずんば幸ひであると言はなければならぬのであります。

一、對獨講和 須藤 教授

講演の前五分間の休憩を利用して地圖を掲げむとするに、流石は萬事氣マメなる傘地借子にこそあれ、自ら進みむさぶるを提供するぞ殊勝なる、聽衆三百——倉敷商業生半數あり——を前にして椅子に上り、倭人俱樂部の悲しき椅子の「春児木」の上に曲藝を演ずるものゝ如くして地圖を掲げんとす、重心安定せず、而か

和ありて海鷗波をしぶいて飛ぶ。水泳をなすこと二時間再びランチは向島を廻りて歸る。

◆第四回 淨泉寺に於て (午後七時半より)

- 一、開會の辭 益田乾次郎君
- 一、殖民政策發達史論 益田乾次郎君
- 一、經濟政策の歸趨と社會政策 武 幸太郎君
- 一、戰後の經濟 五百旗頭教授
- 一、獨逸敗戦の一教訓 瀧谷 教授
- 一、閉會の辭 久留島御調郡長

イヌラエルの豫言者エセキエルが枯骨の谷に於て實見せる神の奇蹟より説き始めたれども、論説の餘りに茫漠に過ぎるものあり、蓋し巷間エセキエルの名を耳にせるもの無し。

一、經濟政策の歸趨と社會政策 武 幸太郎君

自然法學派の哲學より云ふも亦歴史派の立場より亦るも、即ち人類社會生活の究極理想よりして、又我國民經濟の現狀よりして社會政策が經濟政策の歸趣なるを切言す。

一、資の研究 谷田 義一君

一、戰後の經濟 五百旗頭教授

一、獨逸敗戦の一教訓 瀧谷 教授

獨逸は實戦に勝ちつゝ經濟上の自立を缺きし爲に敗戦したり將來日本の獨立發展は日支經濟同盟による原料自給にあり之を思はずして日米戰爭を叫ぶものは邦家を危殆ならしむるものなりと斷ず、聽衆五百有餘傾聴せり。

一、閉會の辭 久留島御調郡長

金右衛門急用にて歸神す、潮の岸を嘯む音涼しく進

化子、黄金子、傘地借子駄句り合ひ乍ら何時の間にか夜の曲に睡り入る。

廣島市

朝から又議論が戦はされる、水久運轉の機械の能否、から欠伸と能率増進の研究、生物学研究の要等。議論も甚だ。午前七時五十二分尾道發にて最後の奮闘地たる廣島市に向ふ、一同元氣旺盛なるも須藤教授の稍腹工合悪しきもの有り、労働問題を叫ぶ進化子、傘地借子も資本主義の怪しげに辯護をする黄金子も汽車に入りては第三等階級である。時々五百旗頭教授が歸断の暮より訪問せられて快談せられる、車の騒音に飽き睡氣に襲はるゝ儘に進化子瞑目して「今前に白河夜舟を清く傘地借子が響き落つればな……」と思ひて目をやつと開くか開かざるに、傘地借子！ピツチが過激なりしか、間に合せのベッドの上から轉展落下せんとする危険々々。

警聲に眼を醒まされて漸く無難なりし傘子大眼玉を黒く白く……。因に棚下しするが傘地借子は昨夏であつたか本三神田君と旅行中同様の経験あり、其の際には北條早雲宜しくの頭でシタタカ床を打ち轉たフロアの堅きに泣かれし人。

午前十一時十四分廣島驛に着く。卒業生村上泰三郎氏、井上千夫氏、鴨谷喜兵衛氏、大野弘男氏、佐伯易次郎氏及び在校生梶徳一君、平川厚一君、可部清一君、野田曾一君、藤井照君、末田祐夫君、木村信次郎君、高木節夫君及び主催者商業會議所よりの出迎を忝ふした、一同太田川畔の天城旅館に到る。中國風指の大會なるも京都式の悠長なる所あり、進化子曰く「廣島は京都に名古屋味を折衷せし所に見

ゆ」も、黄金子は故郷のこゝろ一應歸宅、残つた進化子と傘地借子早や有頂天なつて川に飛込む。

午後卒業生、在校生の訪問を受け麥酒と菓物にて懇親會を開く、遠く母校を離れて此處太田川波のせ、ラギを聞きつゝ催す此の種會合には筆紙に盡し難き快味あり。灯が床しく樂しき、夜の川面に移る、夕立の後にて風稍あれば爽快言に絶す、會場に到れば聽衆既に集り待つ。

第五回 廣島商業會議所に於て

- 一、開會の辭 益田乾次郎君
一、殖民政策の發達 谷田 義一君
同情による朝鮮問題の解決を最後に叫ぶ、進化子曰ふ愛の組織化なるかな。

最も通俗的に熱心なる句調にて貧の研究に關する發表ありしも時間の都合上貧の定義原因に就いて述ぶ所の甚だ多く政策に言及し得ざりしは遺憾なりき。一、戦後の社會問題及び社會政策 武 幸太郎君 労働問題に、食糧問題に、ラガカルな議論を吐いて市民の自覺を促す。

一、食糧問題 五百旗頭教授
マルサス人口論より我國の食糧問題の解決策を掲ぐ食糧價格の公定、陸稻米、化學的食料品等に就いて説明せられ、商人階級の人道的眞使命を諭さる。一、經濟戦争に於ける緊急準備 瀧谷 教授 聽衆二百有五十餘、先生デモクラシーの解訓より進んで戦後經濟戦争に於ける我國の緊急準備として擧げらるゝもの二つあり、一は労働問題の解決、他は物價の調節にあり、一度開きて首肯し二度考へて其の議論の眞理なるを感す。

辯士何れも眞摯に、白熱的態度にて練磨したる雄辯を振ふ、時折拍手の起るあり、如斯通俗講演は一、閉會の辭 龜井書記長

を以て終ひぬ拍手と感謝の内。時に十一時半に近きも卒業生高阪洋吉氏を加へて別室にて茶話會を開き夜半解散す。

進化子、傘地借子と汀邊を歩み山陽道夏期通俗巡回講演の成功を喜び、旅館に入る容易に眠に就く能はず。瀧谷、五百旗頭兩教授と共に談話に瀾々たる進むを不覺。瀧谷教授の幼時の脱白談に一座笑ひ崩るゝ時北辰明るく輝いて二時にも近くなりぬ程に夢路に進入る。翌二十日朝兩教授及び傘地借子は宮島に立ち進化子は黄金子を自宅に訪問し其の夜遅く神戸に歸る。

感謝の辭

此の稿を終るに當つて巡回講演中各地に於て種々お世話下され歡待を賜ひし卒業生及び在校生の方々及び各主催者は勿論酷暑中多忙にも不拘御援助下されし瀧谷、須藤、千輪及び五百旗頭諸先生に對し又陸乍ら吾部同人の成功を祈つて下された小川教授に對し衷心より講演隊を代表し感謝します。特に岡山市の尾谷半三郎氏倉敷町の石勝夫氏尾道市の福田忠三郎氏及び廣島市の高阪洋吉氏には眞へる所甚だ多大なるを覺ゆるものであります。

(一九一九、一四舊盆毎に感ずる傳統的空氣に浸つて武誌す)

學校日誌

○七月五日 宮崎成賀依願解雇

○七月十日 左記の通り出張を命ず

廣島縣 教授 瀧谷 善一

岡山、廣島兩縣 教授 須藤 文吉

○七月十二日 授業一時間後終業式舉行 式後教授會開會

○七月十五日 左記兩名の囑託を解く 雇大崎實書記に任せらる(七月十日)

英國人講師

マリオン、ケットルウエル

米國人講師

ジョン、ダブリユ、トムブソン

左記の通り出張を命ず

東京、京都兩市 教授 土居 亨

朝鮮及滿洲 講師 五百旗頭眞治郎

○七月二十一日 左記の通り出張を命ず

熊本縣 教授 岡田 英定

京都市 教授 坂西 由藏

京都市 書記 鞠谷安太郎

○七月二十二日 水島校長校用に午後九時八分三宮驛發列車にて上京

○七月二十五日 高橋實に雇を命ず(圖書課勤務)

○七月二十六日 水島校長上京中の處午

前九時三十分三宮驛着列車にて歸校

○七月二十九日 教授八木助市に東京、名古屋兩市及埼玉縣へ出張を命ず

○七月三十一日 左記兩名の囑託を解く

講師 島本 得一

教員 古林 眞信

○八月五日 教授山口造酒依願免官(八月四日)

○八月六日 左記の通り官等陞叙(八月五日)

高等官三等 教授 原口 亮平

高等官四等 教授 瀧谷 善一

高等官六等 教授 渡邊 撫松

○八月十四日 岩本啓治教授に任せらる

○八月十五日 講師大山爾也の囑託を解く

學生課主幹の囑託を解く

教授 中川 靜

學生課主幹の囑託を命ず

教授 小川 忠藏

京都市へ出張を命ず

教授 石橋 五郎

長崎、熊本、福岡縣へ同上

教授 坂西 由藏

教授 須藤 文吉

長崎、岡山、熊本、福岡縣へ同上

教授 八木 助市

○八月十六日 教授八木助市商業通論研究の爲め滿二箇年間佛國、米國、瑞西國へ留學を命ぜらる(八月十五日)

○八月二十八日 大阪控訴院判事齋藤常三郎本校教授に任せらる、高等官四等(八月二十七日)

調査課事務囑託田中保太郎商法研究の爲滿二箇年間米國へ留學を命ぜらる(八月二十七日)

募集

記念祭號を期とし會報紙面に筒臺人語なる題の下に斷片、雜感等を募集す。

- 一、成るべく短き事
一、取捨は部長に一任の事
一、筒臺人語と頭書の事
一、締切十月十日

(編纂子)



同窓會

本部 電話 〇八七四 大阪 高等商業學校同窓會 三宮(三) 七番 神戶高等商業學校同窓會

同窓會記事

甲谷陀支部通信

甲谷陀支部設立の議は昨年以來の懸案であつたが今回在任卒業生の數愈々十指を屈するに及んで其の發會式を擧げる事となつた。時は六月十五日午後七時半、場所は長論義街の十八番、カステラ堂と云へば嘘の様であるが知る人ぞ知らん當地切つての料理店である。堂々たる日本紳士の今日の會合には蓋し相應しい所である。

來甲中の第一回八木氏を加へて總員十二名悉く出席。實に未曾有の盛會である。今日の産婆役は例によつて三井物産のK君、食卓萬端の設備に何の遺漏もない。雑談を切り上げて食堂に入る。先づ今日の發會式を祝つて火酒の盃を乾す。暫くはナイフ、フォークの使ひ分けに餘念もないが紅潮漸く兩頬を染むる頃、卓論風發、虹霓萬丈、談は母校の昇格問題より講和問題に及び再轉してY君の提題に關する「人生より見たる印度在住の價値」に就いては議論百出、實に傾聴に價するものがあつた。やがて又別室に退いて當支部規則の制定及び母校昇格問題に對する當支部の態度を協議する事となり。

規則を參案して左の通り決定した。
甲谷陀支部規則
第一條 當部ハ神戸高等商業學校同窓會甲谷陀支部ト稱シ神戸高等商業學校同窓會員ニシテ甲谷陀ニ在住スル者ヲ以テ組織ス
第二條 當支部ニ入會セントスル者ハ左ノ各項ヲ幹事ニ通知スヘシ
一、氏名 二、職業 三、現住所
前項ノ事項ニ變更ヲ生ジタル時又ハ退會セントスル時ハ遲滞ナク之ヲ幹事ニ通知スヘシ
第三條 當支部ニ二名ノ幹事ヲ置キ會務ヲ處理セシム
第四條 當支部ハ毎年二回以上ノ集會ヲ開ク
第五條 當支部集會ノ費用ハ其ノ都度參會者ヨリ徵收シ別ニ入部金又ハ支部費ヲ徵收セス
第六條 當支部ノ決議ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
以上
次いで幹事二名の互選を行ひたる結果
三井物産甲谷陀支店 栗山謙作
久原商事甲谷陀出張所 三田村明

尚ほ母校昇格問題に對しては極力後援の實を擧ぐる事に決し支部の名を以て醜金二十三口應募し其の旨同窓會本部に打電すると同時に他方孟買、新嘉坡等の同窓生にも打電し大に勧誘に努力する事に

滿場一致を以て決議した。左に其の電文を再録する。

- Dosokai, Care Kobekosho, Kobe. Calcutta Shibu born to-day, consisting 11 members. General meeting decided application Yen 2,300 for University fund, following.
 - Ichiyama Kozo. 4 lots
 - Yamaguchi Goichi.
 - Kubota Moichi.
 - Seto Yasuzo.
 - Motomoto Minoru.
 - Arichi Yoshikazu.
 - Tanaka Tatsuzo.
 - Yamada Matasaburo. Each two.
 - Kuriyama Kensaku. Three.
 - Albara Juzo.
 - Mitamura Akira.
- Each one fullstop.
Previous application done individually now cancelled. Believe brother shibu of bigger group and all graduates earlier years should have applied rather attractive lots, full particulars mailed.

To Singapore and Bombay.
Calcutta Shibu born to-day, consisting 11 members, general meeting decided application, Yen 2,300 for University fund. Believe you brother shibu of bigger group should have applied attractive lots, please inform all graduates.

尙ほ又一方母校窪田氏宛左電を發し醜金勸説大に努められたいと希望せり。
Kubota, Care Kobekosho, Kobe
Wired Dosokai, please insert it Gakuyukai-ho in order induce applications for University fund.

吾人は右の結果が聊たり其後援に資する所あらんことを希望して止まぬ。和氣變々裡に會を終へ解散したのは十一時前、外に出れば樹間の雨露淡い月光を帯んで淋しく輝いて居た。永い泰平の眠りから醒め得ざる土人は若い醒めた人々を乗せた自動車の響にも起きず路傍の軒下に見苦しい寝顔を陳列して居た。因に本日の參會者左の如し。

- 日本綿花 八木清太郎君
- 三井物産 市山孝三君
- 扶桑海上 久保田茂一君
- 丸松商店 山口五一君
- 鈴木商店 森本實君
- 阿部市 有地義一君
- 伊藤忠 瀬藤保三君
- 郵船 山田又三郎君
- 芝川商店 田中達三君
- 三井物産 栗山謙作君
- 伊藤忠 栗飯原重三君
- 久原商事 三田村明君

同窓會の醜金事業と敷地購入問題に就て

(幹事刀禰館正雄氏説明)

本稿は七月十二日母校講堂に於て終業式後本會幹事刀禰館正雄氏が在校生一同に對して「同窓會の醜金事業と敷地購入問題」に就き述べられたる説明の概要を筆記したるものにして老生が過般本會幹事の委嘱、水島校長の御同意に依り東海道筋を辿りて醜金勸化の行脚を試みたる際隊員諸君の瀏覽に供する爲め印刷に附せんとして果さざりし處のもの、文責素より老生に在り。 窪田生

諸君も既に御承知のこと、存じますが昨年の晩秋母校を商科大學に昇格せしめんとする運動を起しまして以來我同窓會に於きましても種々之が促進策に就き盡瘁致しました、就中最近最も力を傾倒して居るのは同窓會内の「醜金事業」であります而して此の醜金を最も有効に利用する方法に就き研究を致しました結果愈々「大學用敷地購入」を企てまして去る七日に開催致しました臨時總會に於て滿場一致を以て右敷地購入案が可決せられました、そこで去る十日より地主と交渉を始めた、そこで本日正午を期し愈々賣買契約の假調印をなす事に手順を運んで居ります

るが(調印は都合に依り二十一日まで延期せり)其の買入代金は今日直ちに耳を揃えて調達する事は容易な事ではありませぬ、之が唯一の解決策は同窓會の醜金事業を成功せしめ此の際出來得る限り多額の醜金を集める事が出來るならば土地問題は直ちに解決がつきます。

此の「醜金事業」に就きては之迄會員諸君に宛て本部より數回依頼狀を發送して募集に努めました。が幹事の方でも何分職務の傍ら事務を執つて居りますので時間の餘裕がなく従つて「醜金募集の必要なる理由」「土地購入の必要なる所以」等に就き是迄地方在住の會員諸君に對し充分詳細に報告をする事を怠つて居りました。爲に是等の事業に就き充分の了解を得る事が出來なかつたであらうと存じます。醜金申込口數の未だ豫定額に達せないのも或は夫が爲ではなからうかと心配致して居ります。

就ては、一日も早く充分の了解を得る様に致したいと熟考致しましたが夫れには今や西に東に歸省せられんとする千名に近き諸君に其の趣旨を説明し其の燃ゆるが如き愛校心に訴へ之が宣傳に就き御助力を仰ぐのが最善の方法と考へ昨日委員

の方に御目にかかりまして學生諸君に御傳言を依頼しました。是非學校へ來て同窓會の常議員の口から話せとの御意見で御座りましたので今日御伺致したのであります。就きましては諸君が夫々御歸郷の後地方在住の同窓會員に御説明を願ふ御参考として「醜金事業」と「敷地購入」との關係及び其の内容に就き御説明申上たいと思ひます。

「醜金事業の淵源」

抑々私共が「醜金事業」を計畫しました起源は大學問題突發以前の事でありまして母校の内容を充實し之が發展を促すにはどうしても若干の基金が入用であると考へまして適當なる時機を見計ひ大々的醜金募集に着手せんと考へたのであります。

「大學問題に對する同窓會の處置」

然るに昨春秋に及びまして母校を大學に昇格せしむる爲め愈々具體的運動に着手するに當りまして我同窓會に於ては先づ「當局に對する方策」として第一、文部當局に一日も早く神戸の地に商科大學を設けられ度事之が爲

には母校を昇格せしめられん事を陳情する事に決し本年一月陳情委員を上京せしめ親しく中橋文相并に松浦専門學務局長に面接して陳情書を提出し懇願せしめました。

第二、他方に神戸市の有力者を歴訪し又は招待して賛助を乞ひ其の結果神戸市長、市會議長、商業會議所會頭及び市會の有力者等十數名打連れ上京せられ文部大臣に御面會の上神戸市として商科大學の必要なる事及び一日も早く神戸高商を商科大學に昇格せしむべき事を懇陳して頂きました。次で吾人は

「設備費を充實する方法」として第一、神戸市長、市會議長、市會議員中の各派代表者に訴へ神戸市より少くとも大學用敷地を寄附せられん事を懇願し。

第二、更に富豪に他の諸設備完成の爲め寄附を請ひ。第三、他面我同窓會の結束を固くし母校の急を救ひ其の熱誠と實力を外間に表示して一面には一般寄附金の募集を容易ならしめん爲め同窓會に於て一口百圓五箇年賦拂として最少

「其の效果」

限度貳拾萬圓以上の醜金を募集する事に定めました。當局に對する運動の效果に就きては茲に之を具體的に申上るだけの確證を持ちませんが大體に於て充分の理解と同情を得て居る様子でありまして設備を整ふるに足るだけの充分の寄附金が早く集るだけだけだけ大學の實現期を促進し得ると信じます。然るに最も肝要なる該寄附金の方は今日迄は不幸にしてどうも思ふ様に參らなかつたのであります。

第一に神戸市の寄附問題に就きて見まするに之は之迄市長市會議長及び有力なる市會議員の方々に數回お目に懸り種々具體的に御願を致しまして既に充分の御了解を得て居ると確信致して居ますが何と申しましたも市は公の團體でありまして總ての問題は市會の決議を要し且つ議案として提出する爲には種々な手續を要しまして性急に解決を願ふ事は困難な様であります。今や市長を初め市の有力なる各位も本問題に就きては夫々研究の歩を進めて下さる様であります。

すから吉報に接する日も遠くはあるまいと存じます併しながら不幸未だ確定した問題として茲に御報告することは出來ないのであります。

第二の富豪に寄附を乞ふ計畫は之亦不幸昨春秋以來經濟界が急轉直下悲況に陥りまして迎も寄附を申出づる時期でないかと考へまして此の方の運動は一先づ中止して居ましたので未だ茲に御報告申上る材料を持ちませぬが今や財界も復活の機運に向ひましたから近き將來此の方面に全力を注ぎたいと考へて居ります。

「同窓會醜金事業」

第一及び第二の方法は上述の次第で只今直に實現する事が出來ません。第三同窓會の醜金事業は五箇年後に拂込を完了する計畫なれば一見甚だ迂遠な様に見えますが是は吾々の自力で解決の出來る問題で一番實現し易い事業であると思ひます。

此の計畫を詳言しますれば一口を百圓とし拂込方法は一時拂と五箇年賦に分ち一時拂によれば八分の利息の割合にて割引しますから約八拾餘圓を一時に拂込めばよいのであります。

五箇年賦拂は更に一年の拂込額を毎年一月、七月の二回に分ち一回に拾圓宛拂込めばよいのであります。

若し眞に此度の計畫を御諒解下さつたならば半年毎の賞與期に拾圓乃至貳拾圓位を割愛せらるゝ事は何方にも譯のない事であらうと考へます。最初の計畫に依れば千五百餘名の卒業生の九割は必ず一口を負擔して頂くものとして拾四萬圓又其の半數位は少くとも二口は持て頂くものとして別に七萬圓此の外單獨に一人で五十口百口を申込まるゝ方もありませうから之等特志の方を見込みまして少くとも五萬圓はありませう斯くせば合計約貳拾五萬圓は集め得る考へであつたのです。

然るに實際の成績は如何と云ふに四月に募集を開始しまして今や百餘日を経過致しまするに申込人員約六百人金額約拾萬圓にしか達しないのであります併し之は會員諸君が別に申込を急がれず其の儘にして居られるのが多いのであらうと考へます。依て最初は募集締切を一先づ六月末日と豫定して居ましたけれども募集成績

の不良に鑑み今暫く締切期限を延期し更に極力募集に努めたいと思ひます。水島校長は同窓會の醜金事業に非常に賛成をせられ其の成功を望まれ一時拂にて二十口を御申込になりました。吾々は校長の御賛成を得ました事に就き滿腔の謝意を表すると共に會員諸氏が奮て一口でも多く速かに御申込あらん事を熱望致します。

「敷地購入の必要なる理由」

次で會員諸君の中には何故に醜金を敷地購入に流用するのか何故敷地を必要とするかとの御疑問が頻出する様でありますから此の點に就きても充分説明申上げ御了解を願ひたいと思ひます。

先づ大學の設備をなすに當り如何なる費目が必要なるかを略説し就中敷地購入の最も必要なる所以を申述ませう。

大學設備費の中其の最も重要なものゝみを列舉せば大略左の如し。

- 一、研究所費
- 二、留學生費
- 三、校舍建築費
- 四、圖書館新設費

五、敷地購入費

右の内(一)研究所費は兼松商店の寄附により(二)留學生費の一部は篤志家の寄附金により解決が出來(三)校舍は大學問題決定の曉は文部省でも建て、呉れるのでせう(四)圖書館費は一般富豪の寄附を仰ぐ事を得べく(五)最後の土地問題は前述の如く神戸市で引受て頂ける見込なれども確定して居る譯でなく一番困難な問題であらうと考へます。

(一) 母校を商科大學たらしめんとする計畫を詳説せば現在の高等商業は専門部として其の儘残し置き別に商科大學を設け若し事情が許すならば更に大學豫科をも附屬せしめたいのが理想であります。が果して右の希望通りに許可せらるゝものなりや否やは只今の處全く判明しません。が右の希望が容れらるゝものとすれば到底現在の敷地に之等の新設備を容るゝ事が出來ない事は明白なる事實であります。單科大學は高等學校の卒業生を收容するものでなくてはならず、專屬の豫科を持つ可きものと思はれま

すし又専門部は實業界の要求を顧慮するに是非存續せしむる必要があらうと思ひます。一橋の新制度は未だ發表せられませんが恐らく三者を併置するものと思はれます。

(二) 大學豫科は假に現在の校舍の一部を利用して不足なる分は敷地を工面して建てる。と假定しても研究所、大學教室、大學圖書館等を設けんとせば果して何處に設ければよいであらうか。

(三) 現在の運動場即ち上段の敷地に建てれば大學豫科及び専門部の運動場はなくなり運動場を殘せば別に少くとも四五千坪の敷地を新に購入せなければならぬ。

(四) 教授が授業の爲め往復せらるゝ便宜上から云ふても圖書館、研究室の利用から申しても右敷地は是非共隣接地たる事を必要とする。

「敷地購入の困難なる理由」を列舉せば

(一) 譬へ購入資金が得られても只今次にお話をする候補地を除きて他により以上適當なるものは絶対に得る事が出來ません。何となれば母校の周圍には最早や民家建ち並び僅かに

背面と東側面とに空地を存するのみであります。而して背面の地は數十人の所有者に分割せられ地價も高く傾斜甚しきゆへ地均の費用も高く諸種の點より見て購入容易ならず唯だ一つ残れる好適地は母校東側關西學院北裏の空地のみであります。

(二) 右の空地にても他に轉賣せられ民家の建設を見れば買入困難となる土地收容法に據るも手續容易ではありません。今や母校の門前が市内電車線の終點となり其れに又近く阪神急行の開通を見んとして居りますから市内住宅地益々缺乏を告ぐる今日殊に電車終點と青谷方面とに連絡する唯一の道路に當る閑靜な該空地は必ずや此の儘に放置せば數年ならずして住宅の櫛比を見るであります。

(三) 住宅の不足地所の缺乏は地價を暴騰せしめ今や母校周圍の地は市内電車の開通と共に激騰を告げ現に同窓會が坪拾四圓にて讓渡を受けた寄宿舎の土地の如き坪百參拾圓ならば何時にても買手が有り從て次に述べんとする空地の如きも坪七拾圓以上を唱へ茲一年内に更に二割三割の

騰貴を見るべく土地を買入れんと欲せば今が好時機にして一日を忽緒に附する事が出來ません。

(四) 大學用敷地としては前にも述べました如く是非母校敷地と連接せる事を要します。數町乃至十數町を隔つる場所ならば後日に至りましても或は格安の賣物があるかも知れぬが堂々たる神戸商科大學が土地購入の時機を逸せる爲め數町を隔て分校を有するの止むなきが如き不體裁に陥り笑を後世に残す様な事は好ましくない事でありませう。

(五) 神戸市より敷地の寄附を仰ぐべき豫定であります。が今日は未だ問題とする時期に達して居りませぬ。而かも上述の如き理由があるが爲め購入を急がねばならぬのです。

「好適地發見」

然るに上述の母校東側選手テニスコートの東の地所約六十間四方此の坪數約四千二百坪が篠井壽夫氏の所有地でありまして此の地所の外他に適當なるものなき爲め是非之れが讓渡を得んものと本年二月頃より田崎教授及び山下汽船の重役畑茂氏の御盡

「地價に就て」

一坪六拾五圓は一見高價なるが如きも目下七拾五圓位の價値は充分ある。このことで税關官舎の敷地として坪七拾圓にて購入の計畫があつた事も事實であります。後に聞けば關西學院にても右の地所は必要を感じて居たらしいのです。青谷の東上野村の如き又原田村の東端の如きでも坪五拾圓を唱へ居る現狀ですから決して高いとは思われませぬ。

前述の如く學校前や學校の西側は百貳拾圓内外學校の北側は八拾圓位の相場でありませぬ。近き將來原田村が神戸市に編入せらるゝならば右地所は必ず百圓以上になるでせう。或は將來不景氣の際地價が一時は多少下落する事もあるでせうが大勢は上のものであらうと信じます。

値引につき種々懇談致しましたけれども元來地主に於ては今日の處毛頭

賣却の意志なく茲一、二年経れば必ず百圓以上の價格を見るに至るべしとて賣惜の様子であつたが學校の爲なればとて終に賣却を承諾し加ふるに六箇月にも亘る長期のオツプアーを呉れし好意もありて絶對に値引に應せられざる爲め専門家の意見をも糺して六拾五圓にて購入の事に定められた次第であります。

「買入方法」

右地所は將來神戸市が同窓會より之を買上げて更に敷地として學校へ寄附せらるべしといふことに段取をつけ居るもの、何分未來のことなれば果して左様な事になるかドウかは茲に確言する事が出来ませんから苟も同窓會の名を以て購入する以上同窓會の自力を以て解決する自信がなければなりません。

敷地の入用なる事は御了解下さつても購入の資金を得る方法に付き御案じ下さる方が多數にあらうと思ひます故先づ其の買入方法に就き御説明申上ませう。

之が買入方法は七月七日の臨時總會に於て満場一致を以て可決せられた

條項に従ひ大體左の如き方法にて話を進めて居ますので多分來月中頃には完全に受渡の手續を終るであらうと存じます。

借入金

地價 約四千二百坪 一坪六拾五圓

換にて約貳拾七萬參千圓

所有權移轉登記手数料引當約五千圓
抵當權設定登記手数料引當約貳千五百圓

以上合計約貳拾八萬圓を兵庫縣農工銀行より年七分五厘の割合にて約參箇年借入の契約をなし借入人は常議員四名の個人名義を以て借入る、事に致して居ます同農工銀行頭取大谷吟右衛門氏は大に同窓會の舉を賛同せられ借入金に就き非常な御好意を示されました。

擔保 右借入金の擔保として右土地及び寄宿舍敷地(時價約拾貳萬圓)の時價約七掛迄借入るれば丁度右入用な金高を借入る事が出来ます。

利子 年額約貳萬圓を年二回に拂ふ條件です。

「償却方法」

同窓會の贖金を少なく見積りて約貳拾

萬圓とすれば五箇年賦なれども最初の年は一時拂の分も相當あるものと見て五萬圓位は集るでせう是で利子貳萬圓を拂ひ參萬圓の元金内入をなし如此逐次返却し行かば三年間借入を繼續するものとして利子は合計五萬圓も拂へば充分と思ひますから贖金の殘金拾五萬圓が結局償却せられて三年後には約拾貳萬圓許の借金が残りす(五箇年賦につき償却は前記よりも遅れ従つて三年目の借金額は右の額よりもすつと多いけれども茲には只概算を示したのであります)若し參拾五萬圓も集れば同窓會の自力にて解決が就きます。

右三年の内には大學昇格が可決せられ該敷地は買入値段に利子を加へしものにて神戸市に買收して貰ひ改めて學校へ寄附を受くる胸算なるも神戸市は現金又は他の方法にて寄附する事となすか又は不幸萬一にも大學問題が無期延期となりし時借金の跡仕末はどうなるかと云ふ問題が残ります。

「借入金殘額の跡仕末如何」

同窓會の贖金が參拾萬圓以上も集り

をなすに當り實行し得る唯一の有力なる手段なり。即ち敷地購入問題は大學問題に對し最も重大なる關係を有し其の解決如何は一に贖金事業の成否に繫つて居るのであります故に此の贖金事業は是非共豫期以上の成功を齎したいと切望して居ます。

「學生諸君に對するお願い」
就ては諸君が夫々郷里に御歸りなつたならば是非附近在住の同窓會員を御歴訪の上贖金事業及び敷地購入に關し以上陳陳致しました事をお話し下さつて一口でも多く贖金の應募ある様に御勧誘が願ひ度いのであります茲に御集合の諸君が假に八百あるとして一人若し二口宛御勧め下さつたとすれば千六百口即ち拾六萬圓を募集する事が出来ますさうすれば現在の拾萬圓に加へて合計で貳拾六萬圓となり若し之だけ集める事が出来ましても豫期以上非常なる成功と云ふ事が出来ると思ひます。

庶務課に申込用紙が印刷して準備してありますから御勧誘に當り御携行が願へれば一層有効だらうと存じます。

自力で土地問題を解決する事を得ば問題はありませんが豫定額の貳拾萬圓しか集まらず従つて約拾貳、參萬圓の借金が残りし時如何に之を解決すべきやにつきお話を申上ませう。

(一) 三年の間に大學昇格が定まり神戸市が右土地を買上る代りに資金を寄附せられし時は其の一部流用の承認を得て借入金を返却すればよろしい。

(二) 又市の寄附が資金でなく他の校舎、圖書館等であつたならば富豪に依頼して右不足額の寄附を仰ぐ考へです。

(三) 右二方法共見込なき時は寄宿舍敷地を賣却して借金を完済すべし。

(四) 又非常に不測の事起り地價暴落し右の方法にても借金を返却出来ざる時は四千坪の幾分を分割賣却して借入金を返却すべし(萬止むを得ざる時は最小限二千坪あればどうかこうにか大學敷地として間に合ふべしとの事なり)

若し幸にして神戸市の方にて買取り下さらば同窓會の贖金は他の有益な

「土地問題解決の效益」

る方法に轉用する事を得可く一つの資金を二重に利用し得る事となります。

土地購入は雷に設備充實の中最も困難なる敷地問題を解決するのみならず實に左の如き幾多の間接利益あるを以て吾々が特に熱心に本問題を解決せんと努めたのであります即ち

(一) 是に依て當局に對し大學昇格を一日も早く決定せらるる様請願するに就きて唯一具體的の材料となし得る事。
(二) 是に依て同窓會の結束を固くし得ること。
(三) 母校職員各位及び學生諸士にも喜んで頂くことが出来従つて大學問題に對する氣勢を擧げ得ること。
(四) 神戸市當局者の同情を惹き其の具體的の援助を懇請し得る事。
(五) 微力なる同窓會が比較的重荷を負ひし事が富豪を刺激し寄附を得る事幾分容易となるべき事。

(六) 其他此の事實を發表すれば廣く社會一般の同情を萃め得可き事。要するに敷地購入は母校昇格の宣傳

諸君の中には或は醸金事業を小問題として意に介せず又は寄附金を勧誘する事を卑しき事の様にお考の方もあるでせうが眞に一日も早く母校をして大學たらしめんと欲せば此の目的を達成する手段に就きては常軌を逸せざる以上譬へ其の効果が如何に小さくとも決して輕視する事は出来まいと思ひます又寄附の勧誘に就ても他人に頼むのと異り親しき先輩に頼むのですから何の遠慮も要らないと存じます本醸金の募集に就きては本部に於きましても爾今出来るだけ地方會員と連絡を取りたいのですが幸に今將に國內普く西に東に歸省せられんとするに際し親しくお話を聞いていたいた諸君の口から熱心に御説明を願つた方が印刷物よりもどれだけ懐かしく地方の同窓に響くかわからないと思つてお願に來た次第であります。

今や吾人は大學昇格の第一實行手段として土地問題の解決に全力を傾注せんと決しました是が爲には在舎生の御迷惑をも顧みず借入金利子支拂の財源の一部に

した事の爲に勳章を貰つた、從來は國の存亡に關する戦報で埋められた新聞紙の大部分がこんな記事で埋められる事程左様に世は太平になつた。

●亞米利加の合衆國と云ふ國では七月から酒が飲めなくなるさうだ、之を「乾す」と稱して居る、聞いた丈で頭痛がする。

あれだけ年中乾燥して居る米國を此の上乾されてはだまつたものでは無い、賢明なる亞米利加合衆國の労働者并に兵卒諸君は一齊に反旗を掲げ「濕せ濕せ」と絶叫して居るさうだ、尤も至極だ、幸ひ倫敦では午後六時から十時迄「濕ふ」事が出来る、九時迄だつたが先日一時間程延びた。

○英國でもさうだが米國にも随分閑人が居るを見へる、閑のあるのは少しも差支はないが下らない事を考へ出す、最近も米國の閑人が次の様な事を考へた。

輸入税率を現在の二倍にする、さうするに年々拾四億乃至拾六億圓程國庫の収入が増す、若し税率を二倍にしないに戦後安ん労働で出来る歐洲からの製品と競争が出来なくなる、競争が出来なくなるに高い賃金を労働者に支拂ふ譯に行かぬ、支拂へなくなればストライキをやる、やられては困るに云ふ理由ださうだ、用心せぬと此の國は何をや出すか分らぬ。

○閑人の居るのは亞米利加丈では無い佛蘭西にも相當に居るらしい、佛蘭西には戦前二百五十萬噸の船があつた所が戦争になつて濠行艇や何かで沈められたり使へなくなつたりして今は百三十萬噸位しかない、そこで閑人が考へた、佛蘭西は戦後少なくなるとも五百萬噸の商船を所有しなければならぬ、目下米國への注文が

充當する爲め含費の値上迄お願をするの止むを得ざるに至つたのであります若し幸にして同窓の内より茲に參拾萬圓の資金を集むる事が出来たならば土地問題は立處に解決がつかます同窓會に於ても此の醸金事業の成功を圖る爲め近く須藤教授、窪田庶務課長にお願ひして夏休を利用して全國を行脚して醸金勧誘に御盡力を願ふ事に致しました。

重ねて申し上げますが學生諸君に醸金の御勧誘等を願ふのは甚だ心苦しいのであります吾人は重大なる目的の爲に心ならずも斯くお願に參つたのであります母校を愛する事吾人よりも熱烈なる諸君は御了解下さつて充分の御盡力をなして下さいと信じます幸に吾人の微衷を諒察せられ協心協力吾人の爲に一臂の力を御貸與下さるゝならば當に吾人の喜のみにあらず又母校の爲に慶賀すべきことであらうと信じます。

尚ほ御歸省の上は各位の父兄先輩の方々に御説明を願ひまして多數の方々から直接間接吾人の事業に御同情御援助を仰ぎたいと思ひます。(終)

約五十萬噸ある、獨逸の没收船三百萬噸の内分前も多少は有る、造船の爲に極力資金を盡して海軍の造船所と平民共の造船所が一齊に馬力を出せば一年に五十萬噸は出来るに佛蘭西にも例合はぬ事を抜かす。日本に船を注文する氣は無いらしい。

ひまがないと良い考は出ぬ。(幹事)

名古屋支部通信 (八月八日)

拜啓炎暑の候各位愈々御清祥奉賀陳者商大問題に就ては益々御盡力被下候結果兼而懸案たる敷地買收の件も首尾克く調印相済み申候由早速御通知被成下御手数之段難有奉謝候是れにて目的貫徹の一階段を経申候譯御同慶之至りに奉存候折柄去る五日朝窪田母校書記殿御來名支部幹事御訪問被下候處同氏今同御來名は商大問題醸金募集の爲め貴地御出發以來順路各地へ御立寄りの上御出京可被遊途次當地へ御立寄り被下候由炎暑の折柄同氏の御出張は同窓生の最も多とする處に有之且つ至極御名案之程感服仕候。

此の日殊の外暑氣嚴敷候にも不拘先生には終日御奔走被下候結果申込額考慮中之各位も全部奮て醸金致候爲め兩三日中は御滞在御豫定の處僅か一日にて充分御用を盡くされ候由依て當夜は先生御疲勞の際さ存候へ共聊か慰勞之爲め午後七時より富澤町御樂亭へ御招き致し小宴を催し申候。

當夜は突然に付旅行、歸省、病氣等の方も有之、出席者比較的少數に候處何分にも同窓生全部が先生には御厄介に相成居候事故久し振りに先生を中心として恩師母校同窓會等の御噂に夏夜の短かきを感み申候、

鈴鹿氏の寄附

(母校大學準備費の方へ)

東京市深川區佐賀町一丁目肥料商鈴鹿保家氏は今回大學準備費に充つる爲め奨學資金として公債證書額面五萬五千圓を母校へ寄附せられたり。

倫敦通信

五月二十八日佐山、河野の二者送別并に岸本、鮎川、伊藤、花戸、石關、作道、今城、西口の八若歡迎を兼ねて日本人會に集まる。出席者二十三名。(後)

○休戦條約が調印されてから半歳になる、殘る可き男を殘して歸る可き男は皆戦線から歸て來た女も歸た馬も歸つた、當然の結果として労働が増したそこで建てかけた僅四年の間板圖の中に匿してあつた家の建築に取りかゝる、煤けて眞黒になつた家は塗替を始める、壞れた道路の修理をする、四年間少しも修繕をしなかつたので英國中の道路修繕費が約拾億圓かゝるさうだ、倫敦は次第に奇麗になる平和の氣分が次第に増す。

○先日ホーカーと云ふ男が大西洋の向側から英國に飛行機で一飛に飛んで來る計畫をした飛び損れて所もあるうに大西洋の真中で着水した、此の男が小さい船に助けられて生きて歸つて來たさ云ふ單純な事實に對して國王が打電してハッキンガム宮殿に招く大小の新聞が譽める民衆共が騒ぐ遂に此の男は無事大西洋に着水

○奧は仲々に盡きんとも覺え不申候得共午後十時に解散致候。
先生には翌朝八時發御上京被致候。
先は右御報告申上度如斯御座候事々
因に當日出席せられし方は
窪田先生
豊田、齋藤、小島、竹内、今井、山田、早川、深見、鈴木

大連支部通信 (八月二十三日)

拜啓益々御隆昌奉賀候、陳者過般五百旗頭眞治郎氏御來連、母校昇格資金の會員金抄々しからず御苦心の趣拜承、御盡力奉謝候就いては滿洲在住同窓會員中未だ申込なきもの、或は尙ほ追加應募し得るものと相認め候向へ對し本支部より勧誘致居候に付今暫く御編豫被下度、右得貴意申候拜具

大阪一九一九會之記

江戶兒は馬鹿に氣が短い。卒業してから未だ二箇月もならぬのに集つては飲んでゐる、俺等は大阪商人ちや仲々落付いたものだよ。……さば言ふものゝ夫れは泣き言である。會いたい。語りた。飲みたい。て云ふ事は俺等が卒業してから毎日の様に獨語してゐた所ぢや。五月の末に集合する豫定が徴兵検査の爲め成立せず六月二十八日漸く水の都の中央なる「備一」で開催した。
○の邦さんが開會の辭で先づ大喝采を博した。ぼつ

くこ孟が廻る、母校の噂が出る、其處で東京の一九一九會に呼應して吾人も左之通り決議をした。大阪一九一九會は母校商大問題基金として各自出来る限りの贈金をなす事を約す。

彼等は無論其捧げし黄金の一片が母校昇格の爲め幾何の價値ありやと云ふ事迄深く吟味したくはない。唯々今の吾人にまつて最も苦痛である金を以て——其金は僕等の労働の報酬である、生命の一片である——俺等の母校に對する誠意の一端を現はしたいのに過ぎないのだ。

鳥賀陽先生の轉任問題は續いて喧しく論議せられた。然し夫れも真相がわからぬので結局来る可き總會を待つ事にした。

議論が片付いた頃から大分酔い出した。全国各地に徴兵検査に歸つた事まで仲々珍談が出た。兵隊さんに探られた連中が盛に氣焔を吐く。李君が大阪で司令官に大にあげられたさうだ。

「此中に高等商業學校を出た男が一人だけある賊に立派な男子ぢや」

彼の得意又シンプルならずや。石徳も齒が滅茶苦茶だがさういふやつつけられた邦彦君の合格は當然だが叔父さんの甲種合格は彼自身も友人も共に驚き又同情した反之川越の乙種は不公平である事に一決した商賣上の話も少々は出たが大勢の向ふ所忽ち壓倒されて勇ましい高商節や葺合ダンスが始つた。まあよくもあれ位騒いだものだ料理屋の人々嘔然たり。あまり泥酔せぬ中にと寄書をする。

六月二十八日靖和締結の日備一で飲む愉快。(石良)學校の噂を聞いても社會の様子を聞いても悲觀の材料ばかりだが己等は悲觀した丈では辛抱出来るぞ(整)

色が悪くも心配するな、これでも印度ぢや美少年。(二箇月後に渡印するトリ生)快樂無極。(僧生)渡米を數箇月後に控へて人戀し友戀し學校戀し若き血を學校とは異郷にありての一の誇りも慰籍なるべし。(健兒)

商神、春筒塞、木曾筒、痛快。(城)社會に出て初めて神戸高商の尊さ諸先生の雖有味さを感じ申候。(初生)

醒めゆく吾人の胸に四年の筒塞生活は日々深刻を加へる。(大島生)世界は將に改造せられんとしてゐる一九一九年は新しい時代の第一年である、母校も一九一九を期して改造せられつゝある、一九一九たる我等は新時代を開拓すべきパイオニヤたる可きではないか、大阪の一隅に會せる十數人の同窓并に世界各地の同窓生よ吾等に共鳴せぬか(航)

若き血を歌ひ交せし此宵を十年の後に逢ふて語らん(RH)講和調印の聲を耳にしつゝ飲む又快なり。(讓)始めて入間らしい氣がした。(素人生)私も無事に幸福に生きてゐます。(龜)意氣衝天久し大阪の呑助。(享樂の夕に、石徳)謝恩會の晩筒塞の草の上十時半頃の悲哀は誰も忘れてはゐないであらう。一生涯に此血の友、涙の友、再び此學舎に集ふ事がないと思つた時に、僕は泣いた。そして叫んだ「生きてゐて呉れよ」爾來俗界に棹す事三箇月再び大阪の同人集り飲む快ならずや飲めよ、我友側に在り。(たかし生)

近く海外へ大島居、富水、東島の三君が出る事でもあるし記念の撮影をした。連中は歡をつくして各自の

家に急ぐ。年の暮、兵隊さんの送別會に再會を期して別れる時に十時。二三の友人徴兵で歸郷の爲め缺席せられしは遺憾至極御許しあれ、伊藤忠の諸君に御盡力を謝す。(七月一日の夜卓記す)

母校より

素堂生

拜啓殘暑猶猛威を振ひ居候處同窓諸兄愈々御健在奉賀候借て母校にては七月十二日を以て終業式舉行水島校長より深厚なる訓諭を受けて一千の學生は夫々歸省仕候てより最早六十日の休暇も餘日少々相成申候。本校にては水島校長別府に御避暑相成候を筆頭に數名の教授は或は信州に或は海濱地方へ旅行尤も岡田先生の如き富士登山、九州阿蘇放跡に大に元氣を出し被居候等各位夫々の目的にて旅行を試み候て五百餘頭講師の滿鮮旅行は距離最も長きものに御座候。一、山口造酒先生は教授の職を辭し講師として引續き授業の事に相成候。

一、石橋先生の元氣は特筆の價値有之候現に七月一日の平和祝捷會には大講堂に於て數時間に亘る長講演に些々の御疲勞をも感ぜられず候然も毎々の事ながら深遠なる御研究を發表せられ職員學生一同感喜仕候殊に對獨講和の内容に付領土處分案は左のプリンシプルに基くその斷案を承り御驚眼の鋭きに敬意を表せざるを得不得候。

甲、舊國復興主義(ポーランドの復興の如きを指す) 乙、民族自決主義(シユルスウイヒ、ホルスタインの如きを指す)

丙、歴史尊重主義(アルサスローレンの佛國へ復舊の如きを指す) 丁、交通自由主義(ダンチツヒの自由港の如きを指す) 戊、國際聯盟主義(獨領委任統治の如きを指す) 己、賠償主義(ザール地方佛國割讓の如きを指す)

一、校内にては七月下旬坂西先生を中心に商業及び經濟の研究會を開會須藤教授の朝鮮經濟事情に關する講演に引續き朝鮮關稅問題其他に付數時間討論研究致候。又七月中旬原口先生を中心に會計學會開催舊師東先生東京より遙々來會多數の會員集合研究討議有之候目下「プレナム」問題として會計學論叢の續刊計劃中に御座候。

一、八木教授は近日歐洲へ田中保太郎兄は米國へ留學の爲め渡航可相成補缺として法學士土居亨君及び商學士岩本啓治君の兩教授の新任を見申候。一、職員の動靜としては瀧谷教授の田邊町講演會に御出張須藤教授の學術研究の爲め上京等記すべきもの不尠候猶ほ暑中休暇に入りても一日も休務せざる庶務會計課を始め調査課圖書課其他の係員の勞は多大に候。

一、次に學生側にては休暇に先ち既に歸心矢の如きも有之終業式後直ちに大部分歸省の途に就き申候へ共講演部員は岡山、廣島方面への巡回講演に舌根を枯らし又野球部員は兵庫縣下野球大會の主權校幹事として炎天に市内遊園地を東奔西走し又陸上運動部員は鳴尾に合宿練習中に有之候蓋し三伏の候を物とせず金腕鐵脚を鍛練する所以のもの九月初旬東京慶應學生との對校競技に先輩の名を毀さざらん準備に外ならず候野球部員の京都合宿も九月中旬舉行の

關西專門學校競技大會に出場の準備にて其の意氣を一に致候亦盛ならず候哉。一、終りに商大問題に付一言致候實に今春以來幹事會常議員會實行委員會を開く事十數回又總會數回の開催を重ねて慎重審議對策實行大に勉め促進の機運醸成に腐心せる結果水島校長の再度の上京に徴し前途に光明を發見致居候即ち内容の充實設備の完成に就き最難事業たる敷地購入の件を同窓會に於て主として決定するの任に當り別項記載の通り既に申込ありたる贈金拾萬餘圓を基礎として資金の借入地主との契約實行に着手仕候此間の詳細なる所謂幹部連の苦心談は到底文筆の能くする處に無之候何卒深甚なる御同情を以て御賢察の上未だ御申込無之諸兄に於ては至急精々多額の御申出有之様偏に希望仕候。時下折角御自愛の上邦家の爲め一層の御活躍祈上候先は御見舞旁一筆啓上如斯御座候敬具

會員動靜

Aの部

●明比 眞金君(一二) 所屬變更・出征兵士凱旋の結果中隊編成管行はれ小倉歩兵第十四聯隊第十中隊に編入(七月三十一日報)

●有地 義一君(一〇) 郵便宛先變更・Yokohama Specie Bank, Ltd., Clive Street, Calcutta. o/o

Cの部

●忠田 兵造君(二) 轉任・内田商事株式會社臺灣出張所在勤の處上海英租界江西路、同社上海支店へ

轉任(八月報) ●千村 敏彦君(八) 轉任・原田汽船株式會社汽船薩摩丸に乗船中の處同社青島支店(青島所澤町)營業部主任に轉任を命ぜられ八月二十六日赴任

Fの部

●福岡 正吉君(六) 勤務先・久原商事株式會社倫敦支店 (c/o Kuhara Trading Co., 60 Mark Lane, London, E.C.) ●藤野 菊雄君(四) 轉任・興行商店を辭し名古屋市西區傳馬町、名古屋銀行に就職◎現住・名古屋市東區高岳町二丁目一五、(七月十八日報)

●藤井 二三君(一三) 轉任・山下汽船株式會社神戸本店在勤の處新嘉坡支店を命ぜられ八月四日神戸出帆の鹿島丸にて出發(c/o Messrs Yamashita Kisen Kaisha, Winchester House, 16 Collyer Quay, Singapore. ●藤崎 丈松君(二) 轉任・名古屋市中區門前町八丁目全香寺境内(八月一日報)

●深田 俊助君(六) 郵便宛先・郵便物は今後自宅岡崎市若宮町一八、宛に願ひたしとのこと ●福井 孝一君(一三) 轉居・東京市赤坂區青山南町六丁目一六、(昨秋移轉)

Hの部

●原 義之助君(一三) 轉任・三菱商事株式會社東京本社在勤の處神戸市相生町一丁目同社神戸支店へ轉任(六月二十五日報) ●濱田 隆三君(三) 轉任・朝鮮殖産銀行馬山支店在勤の處同行釜山支店を命ぜられ七月十四日着任

◎現住・釜山府大廳町二丁目二ノ九、
● 峰谷 昌藏君(二) 轉職・朝鮮殖産銀行安州支店在職中出征を命ぜられ先般無事凱旋郷里にて静養中の處今回福岡縣八幡市製鐵所販賣部へ轉職(八月十七日報)

● 橋本 戊子郎君(四) 渡歐・滿鐵社命に依り滞在約二箇年の豫定にて渡歐の事となり七月中旬大連出發暫く郷里宇治山田市へ歸省の上九月三日解纜の伊豫丸にて倫敦へ向け出發 ◎留守宅・關東州旅順市常盤町八八、勝浦柄雄方

● 橋本 一夫君(一三) 現住・横濱市青木町東輕井澤一八五〇、

● 橋本 良平君(七) 轉居・東京府西巢鴨町二二〇、

● 林 庸夫君(八) 渡米・三井物産株式會社神戸支店在勤の處社命に依り七月二十八日神戸出帆渡米の途に就かる ◎留守宅・東京市芝區西久保巴町二三、矢野義弓方

● 林 慶吉君(三) 昇任・日本樂器株式會社支配人勤務中の處本年より更に同社取締役任に昇任

● 林 政嘉君(一一) 轉居・東京府豐多摩郡下流谷町四七三、

● 花戸 龍藏君(八) 着英・五月十四日夕無事着英 ◎宿所・c/o V. Curtoe, 119 Tulse Hill, London, S. W. 2.

● 服部 正喬君(一〇) 轉居・東京市小石川區原町二二五、狩野方

● 東島 健兒君(一三) 轉任・三井物産株式會社棉花部大阪本部在勤の處同社棉花部米國グラス支部勤

● 北濱 一郎君(一三) 任地變更・三井物産株式會社新嘉坡支店在勤の筈なりしが父君病氣の爲め小樽區北濱町三丁目同社小樽支店勤務のこゝなり七月十四日着任、尙ほ同父君には醫藥終に効を奏せず八月六日午前二時逝去せられたる由

● 國吉 省三君(一〇) 所屬變更・出征部隊凱旋の結果中隊編成替行はれ小倉歩兵第十四聯隊第十中隊に配屬

● 倉員 光弘君(六) 轉居・大阪府西成郡豐崎町南濱一三三番地

● 小原 富吉君(九) 逝去・病氣の處藥石効なく終に七月二十七日兵庫縣武庫郡深江の寓所に於て逝去せらるる葬儀は八月二日郷里滋賀縣蒲生郡武佐村大字野田にて執行

M の部

● 前田 義夫君(一三) 赴任・七月十五日神戸出帆の佐渡丸にて任地三井物産株式會社瓜哇出張所へ向け出發 (c/o Mitsui & Co., Ltd., Room Nos. 1-2-3, Escompto Building, 725, Kemhang, Djepoen, Sourabaya, Java.)

● 丸谷 喜市君(四) 渡英・留學の爲め紐育滞在中の處六月二十一日同地より英國へ向け出發

● 松本 高君(三) 消息・拜啓七月九日横濱出帆二十三日シヤトル上陸二十五日同地出發二十九日朝當地に安着致候長途急行に拘はらず別に疲勞も覺はず元氣に御座候間御安心被下度候摩天樓其の他覺悟の上にて復へりし心地致候當地には十月一杯位滞在の豫定にて其の間に種々打合せやら研究やら致さるべからず

● 堀内 泰吉君(二) 轉居・東京市赤坂區露南坂町三十一番地

● 濱野 隆一君(九) 轉任・日本郵船會社東京本社在勤の處横濱市海岸通四丁目、同社横濱支店へ轉任

● 伊藤秀三郎君(一〇) 入營・九月一日より九十日間第二次勤務演習の爲め小倉歩兵第十四聯隊へ入營(中隊未詳)

● 井上重太郎君(二) 就職・七月十六日より大阪市北區堂島濱通二丁目、東洋紡績株式會社營業所に就職

● 井上貴與記君(九) 轉職・上海丹羽商店を辭し東京市日本橋區箔屋町一七番地、日本麻絲株式會社に就職(八月二十五日報) ◎佳の二變更・熊本市上小澤町一四五、

● 石田 庄吉君(一一) 轉職・大洋組辭職の上大阪市南區末吉橋通二丁目(長堀橋交叉點西側)平野屋合資會社代表社員として砂糖業に従事(七月二十日報)

● 石井 功君(五) 現住・神戸市平野雪御所町一八三番屋敷

● 石井 薫君(一〇) 辭職・富來洋行辭職 ◎現住・大阪市北區西野田今開町五七七(七月十四日報)

● 石田 勉夫君(五) 辭職・久原鐵業株式會社日立製作所辭職

K の部

● 相嘗忙しかるべし 存候暑氣も今週に入り非常に樂に相成候由左ればにや日本より涼敷襟存候或は一雨來る事ならむと存候先は安着御報返敬具(七月三十一日紐育發水島校長宛端書)

● 向坊盛一郎君(二) 昇任・南滿洲鐵道株式會社計理部會計課長に昇任

● 村上 義温君(四) 赴任・引續き滯京中の處事件突發の爲め七月二十七日神戸を經て急遽長春へ赴任せらる

● 三根 忠作君(一一) 渡支・伊藤忠合名會社支那視察員を命ぜられ滯支約一箇年半の豫定にて七月二十日上海到着當分は同地滞在の筈(上海漢口路五號A、伊藤忠商事株式會社上海支店)

● 村田 倫穆君(七) 轉任・東洋拓殖株式會社大邱出張所在勤の處京城黃金町二丁目、同社京城支店へ轉任 ◎現住・京城通義洞東拓社宅(八月一日報)

● 森 延年君(三) 轉任・海軍水雷學校附勤務の處本職を免し滿州主計長に補せらる(八月二十三日)

● 宮田治三郎君(三) 現住・大阪府東成郡天王寺村大字天王寺茶屋前二〇九七番甲第九號

● 松野虎五郎君(六) 轉居・大阪府三島郡芥川村大字芥川三五、日本絹綿株式會社々宅

● 三田村 明君(二) マン・c/o Kuhara Trading Co., Ltd., E 2 Clive Bldg. Calcutta.

N の部

● 中村 文夫君(一〇) 轉任・大阪住友總本店在勤の處北海道北見國紋別郡遠輕局區内、住友鴻之舞鐵山勤務に轉任(八月二日報)

● 神谷 一五君(二) 轉任・三井物産株式會社長春出張所在勤の處東京本店勤務に轉し更に岡山縣兒島郡日比町字玉、同社造船部詰を命ぜられ七月十六日着任 ◎改名・太平と改名

● 加藤 録藏君(一〇) 轉任・三菱合資會社總務部勤務の處六月十日より新設三菱海上火災保險株式會社(東京市丸の内)へ轉任

● 笠原 正策君(七) 轉任・大阪商船株式會社基隆支店在勤の處同社門司支店へ轉任(八月一日報)

● 川島 努君(二) 所屬變更・西比利亞出征部隊凱旋の結果中隊の編成替となり小倉歩兵第十四聯隊第九中隊に配屬

● 河内英三郎君(五) 轉任・芝川商店神戸支店在勤の處横濱市山下町二〇二、同商店横濱支店へ轉任

● 河合 眞一君(二) 現住・東京市麻布區市兵衛町二丁目一七、

● 河原林貫一君(二) 轉居・下關市大字關後地字新路九九一、(俗稱下關市清和園第二號地) 三

● 木下 茂君(一〇) 郵便宛先・支那奉天新市街翠平町一五、久原商事株式會社奉天出張所

● 木村 涼吉君(二) 轉職・芝川商店を辭し神戸市播磨町二番、合資會社高田商會神戸出張所に就職(八月十七日報) ◎現住・神戸市青兵庫西出町一九九(電本局三六四一番)

● 草葉 忠一君(一〇) 轉任・鈴木商店神戸本店在勤の處横濱市本町五丁目、同商店横濱支店生絲部勤務に轉任(七月十日報)

● 駒田 萬二君(二) 轉任・大阪商船株式會社本社遠洋課在勤の處同社橫濱支店へ轉任(七月十一日報)

● 中谷 茂君(二) 轉任・鈴木商店神戸本店勤務の處香港出張所へ轉勤を命ぜられ八月十四日長崎出帆安藝丸にて赴任(c/o Suzuki & Co., Queen's Road, Hong Kong)

● 中川松治郎君(二〇) 轉居・神戸市外西灘村岩屋字池尻

● 西村 政雄君(一〇) 轉任・鈴木商店漢口出張所在勤の處神戸市東川崎町一丁目、本店米油部勤務に轉任(七月十一日報)

● 忍頂寺誠一君(一三) 轉居・東京府北品川御殿山七七八、

● 長野常次郎君(九) 轉任・久原商事株式會社東京支店勤務の處昨年七八月頃より同社新嘉坡出張所に在勤の由(c/o Kuhara Trading Co., 1 Raffles Quay Singapore.)

● 納賀 雅友君(六) 轉任・山下汽船株式會社東京支店在勤の處同社新嘉坡支店へ轉勤の事となり九月十二日横濱解纜鹿島丸にて亞米利加、歐羅巴を經て赴任但し任地到着は來春の豫定なる由(c/o Yamashita Kisen Kaisha, Winchester House, 16 Collyer Quay, Singapore.)

O の部

● 小川實三郎君(六) 轉任・歸朝後鈴木商店神戸本店勤務の處更に横濱市本町五丁目、同商店横濱支店詰に轉任 ◎現住・相州鎌倉由比ヶ濱二二一(七月二十八日報)

● 小田 萬藏君(一〇) 轉任・久原商事株式會社里昂出張所新設の爲め渡佛中の處愈々左記名義にて開業のこゝなりたる由(五月十五日報)

M. Oda, 2, Rue de la République, Lyon, France.

●小山珪太郎君(九) 渡印・歸朝中の處八月二十五日神戸出帆の賀茂丸にて再び渡印 (c/o Goshu Kalshiki Kaisha, Hornby Road, Fort, Bombay.)

●大鳥居彦三君(一三) 轉任・江商株式會社神戸出張所在勤の處同社孟買支店に轉し八月初旬釜戸丸にて赴任(c/o Goshu & Co, Albert Building, Hornby Road, Fort, Bombay, India.)

●尾池茂次郎君(六) 轉職・日東商事株式會社を辭し神戸市榮町三丁目二七、内外貿易株式會社に就職(七月報)

●岡本 俊雄君(九) 轉任・三井物産株式會社金物部大阪支店在勤の處孟買支店へ轉勤を命ぜられ八月二十五日神戸發のマルパ丸にて赴任 (c/o Mitsui Bussan Kaisha, Ltd., Dwarkades Buildings, No. 192, Hornby Road, Fort, Bombay.)

●岡部 鐵二君(五) 辭職・病氣加養の爲め増田貿易株式會社辭職(七月十日報)

Sの部

●佐藤 覺次君(七) 就職・大阪市西區北通三丁目、木下貿易株式會社に就職 ◎現住・大阪市外天王寺村天王寺三〇八、(東天下茶屋停留場南二丁目踏切西入)

●佐々木靖之介君(一) 轉任・芝川商店横濱支店在勤の處紐育支店に命ぜられ八月十五日出發赴任(c/o Shikawa & Co. Inc, 120 Broadway, New York City, U. S. A.)

●佐野 周君(一) 轉任・山下汽船株式會社

六、橋館

●津田 武二君(一三) 住の一・東京市外内藤新宿二ノ七四、長霞外方 ◎住の二・神戸市平野五ノ宮町八

●谷田 俊雄君(一三) 所屬變更・大阪歩兵第八聯隊第二中隊 ◎住の二・大阪市南區天王寺眞法院町五四三

●谷口三樹三郎君(九) 現住・神戸市旗塚通二丁目一番屋敷

●田中保太郎君(一三) 留學・母校調査課事務囑託中の處今回文部省より商法研究の爲滿二箇年間米國へ留學を命ぜられ九月十五日大阪出帆の三井物産の劍山丸にて出發但し室蘭より乗船の筈

Uの部

●鶴木 健造君(八) 轉任・山下汽船株式會社神戸本店へ轉任の處更に門司市東本町四丁目、同社門司出張所を命ぜられ七月十日着任

●鶴飼 清君(一) 轉居・神戸市和田宮通五丁目三〇番屋敷、三菱造船所社宅

●上塚 司君(六) 郵便宛先・滿鐵社命に依り引續き支那各地旅行中の處八月初旬より十一月初旬迄の郵便物は在雲南日本領事館宛に願ひたしそのこと

Wの部

●渡邊 嘉一君(五) 轉居・兵庫縣武庫郡本山村野寄

●若林鐵次郎君(一三) 辭職・三井物産株式會社穀肥部在勤の處都合に依り辭職(八月二十八日報)

Yの部

●山下雄太郎君(三) 就職・神戸市播磨町一七共

神戸本社在勤の處東京市日本橋區吳服町、同社東京支店へ轉任を命ぜられ七月八日着任

●佐竹 良太君(五) 轉任・臺灣銀行臺南支店在勤の處同行上海支店へ轉勤を命ぜられ八月四日着任

●佐島 忠夫君(九) 轉居・神戸市葺合町一七二一ノ二五〇

●城崎 祥藏君(一) 昇任・南滿洲鐵道株式會社鐵業部販賣課長に昇任

●鹿谷 益喜君(九) 歸朝・社命に依り昨年五月南洋各地視察の途に上り馬來半島・暹羅・スマトラ島を順次巡遊し十月以來新嘉坡出張所に滞留中の處今回歸朝の上大阪市北區堂島濱通三丁目一番地南洋貿易株式會社大阪支店に復任(七月二十三日報)

●條崎 謙二君(九) 轉任・三上合資會社大阪支店在勤の處神戸市海岸通三丁目八番邸、同社本社に轉任(八月十二日報)

●條原 義雄君(八) 轉任・長瀬商店神戸支店在勤の處八月一日より大阪市東區平野町三丁目、同商店棉布部勤務に轉任

●新谷保之助君(八) 轉任・協信洋行神戸本店在勤の處哈爾濱濱頭區同洋行哈爾濱支店勤務を命ぜられ七月二十七日出發赴任

●妹尾光太郎君(三) 轉居・兵庫縣武庫郡西宮町西ノ濱甲南園

●鈴木 元善君(一三) 就職・病氣靜養中の處全快につき九月一日より和歌山市十一番丁四十三銀行に就職

Tの部

●田中 榮君(二) 轉任・三十四銀行東京支店在勤の處神戸市兵庫小物屋町、同行兵庫支店へ轉任(七月十日報)

●吉住 秀造君(一〇) 轉任・住友銀行川口支店在勤の處大阪市東區北濱五丁目、同行本店調査部勤務に轉任 ◎現住・大阪市外天王寺村巴通

●吉川壽治郎君(一〇) 入營・八月十日より九十日間第二次勤務演習の爲め伏見歩兵第三十八聯隊第二中隊へ入營

●吉田 長祥君(四) 現住・大阪市西區北堀江三番町所在の住宅を營業所の一部に使用し現住を従来の

月十四日報)

●田井 駒吉君(一〇) 轉任・鈴木商店神戸本店勤務の處臺灣出張員としてシドニー在勤を命ぜられ七月中旬神戸發日光丸にて赴任 ◎郵便宛・c/o Messrs. Brown & Dureau, Ltd., Broughton House, Corner of King & Kent Streets, Sydney, Australia.

●田伏 修君(八) 轉居・大連市淡路町ニ區第十九番地(電長八八七番)

●高橋 武美君(七) 兼任・臨時産業調査局事務官に兼任の上歐洲各國へ出張を命ぜらる(八月廿五日)

●高木 作太君(一) 轉任・三菱鐵業株式會社東京本社在勤の處佐賀縣東松浦郡北波多村、同社芳谷炭坑に轉任(七月十九日報)

●竹中 政一君(一) 轉任・四郎鐵路局在勤の處大連滿鐵本社總務部文書課長に轉任(八月一日報)

●玉垣 德藏君(四) 轉任・伊藤長商店天津支店在勤の處神戸市北長狹通四丁目、同商店神戸本店に轉任(八月十一日報)

●寺田喜三郎君(二) 轉任・東和汽船株式會社神戸本社在勤の處同社浦鹽出張所に轉任 (c/o Towa Kisen Kaisha, No. 27, Sveianskaya St., Vladivostok.

●留守宅・京都府相樂郡本誓町二丁目、高橋喜一郎方 ◎留守宅・京都府相樂郡本誓町二丁目、高橋喜一郎方

●寺本太十郎君(一〇) 轉任・茂水合名會社東京支店勤務の處紐育支店へ轉勤を命ぜられ八月三日横濱出帆香取丸にて赴任(c/o Mogi & Co., 291 Broadway, New York City, U. S. A.)

●殿村 恒藏君(四) 轉居・兵庫縣御影町字櫻一

●塚田振治郎君(一) 轉居・東京市本郷區臺町

保生命保險株式會社神戸支店に就職(八月二十七日報)

●吉住 秀造君(一〇) 轉任・住友銀行川口支店在勤の處大阪市東區北濱五丁目、同行本店調査部勤務に轉任 ◎現住・大阪市外天王寺村巴通

●吉川壽治郎君(一〇) 入營・八月十日より九十日間第二次勤務演習の爲め伏見歩兵第三十八聯隊第二中隊へ入營

●吉田 長祥君(四) 現住・大阪市西區北堀江三番町所在の住宅を營業所の一部に使用し現住を従来の

同窓諸兄へ御依頼

吉田長祥

日本は元より世界各地に住まはる、同窓諸兄に御頼みがあります。

私は世界中の噴火山の事を研究したいと思つて居りますので、若し諸兄の御近傍に火山がありますならば、名稱、位置、地形、登山路、噴火歴史等御存知の點をなるべく詳しく御知らせ願へますまいか。

又諸兄の御近所に或は御旅行の序に左記の品を賣つて居りますならば買ふて送つて頂けますまいか、實費は元より私が負擔致しますから御知らせ下されば前金で御送り致します。

一、噴火山の寫眞、エハガキ、繪畫、書籍等 是等の材料が相當集まりましたら展覽會を催し且つ記念帖を作つて進呈致したいと存じます。

別に蒐集に期限はありません。私の一生の仕事でありますから何年先でも御序のあつた時に思ひ出して下されば結構であります。 御送り先は

大阪市北堀江三番町 吉田長祥

若し右の所を御忘れになりました時は、單に「大阪市吉田長祥」でも届きます。

會費受領報告

(自大正八年七月三十一日
至同年八月二十五日)

- 一金參拾圓宛 終身會費 松尾 守一 鷺野甚之助 原田 恭藏
- 野田 眞湛 宮田治三郎 三木 六郎
- 野田 金一 中尾 義則 三田村 明
- 終身會費 竹内 幸二
- 一金貳拾五圓 同上 有地 義一
- 一金六圓宛 七、八年度分 淡川 共吉 小林喜三郎 平佐 幹
- 佐藤 忠一
- 一金五圓宛 六、七年度分 原田 恭藏 三木 六郎
- 八、九年度分 大塚 瀨 吉水 義一
- 一金參圓宛 八年度分 片岡 祥一 山内孫太郎 古川 雄郎
- 中村 俊夫 桑原佐千男 早川 義尾
- 山田 廉平 山瀬 信三 宮本 昌三
- 黒田 仙吉 細田 藤彌 井川 亮
- 野村 勝一 藤井 憲一 伊藤 盛輔
- 玉手 弘 小野 重一 宮城 時平
- 藤原 米造 小林 吟二 高田 太吉
- 石橋英之助 伊藤 隆一 丸川 賢二
- 服部 正喬 梶原 隆藏 堀 直幹
- 一金參圓宛 七年度分 佐野 周 三田村 明
- 一金壹圓五拾錢宛 八年度分 山中 直一 鈴村 榮一 平井泰太郎
- 今津儀八郎 宮田喜代三

水島校長謝恩記念 事業醴金受領報告

(自大正八年七月三十一日
至同年八月二十五日)

- 一金貳圓五拾錢 八年度及九年度ノ内 福井 孝一
- 終身會費不足分 落合 豐一
- 一金貳圓 七年度分 菅野 眞湛
- 一金貳拾圓宛 一口分 由本 邦藏 濱田 信哉 土井益次郎
- 京藤 一二
- 廣部 久 渡邊 喜一 宮城 時平
- 増尾 辰政 圓尾 則忠 三宅 舜次
- 一金拾七圓 一口殘額 竹内準之助 松村 耕吉 牧野 修三
- 平佐 幹 田中 丘吾 川原 慶一
- 足立 利夫 垣内 敏廣 小山 悟郎
- 同 能努 良二 篠田 雅男
- 武田 守一 石田進太郎 山口爲三郎
- 乙二口第三回分 櫻井 縣 德山 明雄
- 一金拾五圓宛 一口殘額 廣部 久 渡邊 喜一 宮城 時平
- 増尾 辰政 圓尾 則忠 三宅 舜次
- 一金拾七圓 一口殘額 竹内準之助 松村 耕吉 牧野 修三
- 平佐 幹 田中 丘吾 川原 慶一
- 足立 利夫 垣内 敏廣 小山 悟郎
- 同 能努 良二 篠田 雅男
- 武田 守一 石田進太郎 山口爲三郎
- 乙二口第三回分 櫻井 縣 德山 明雄

商大問題醴金受領 報告

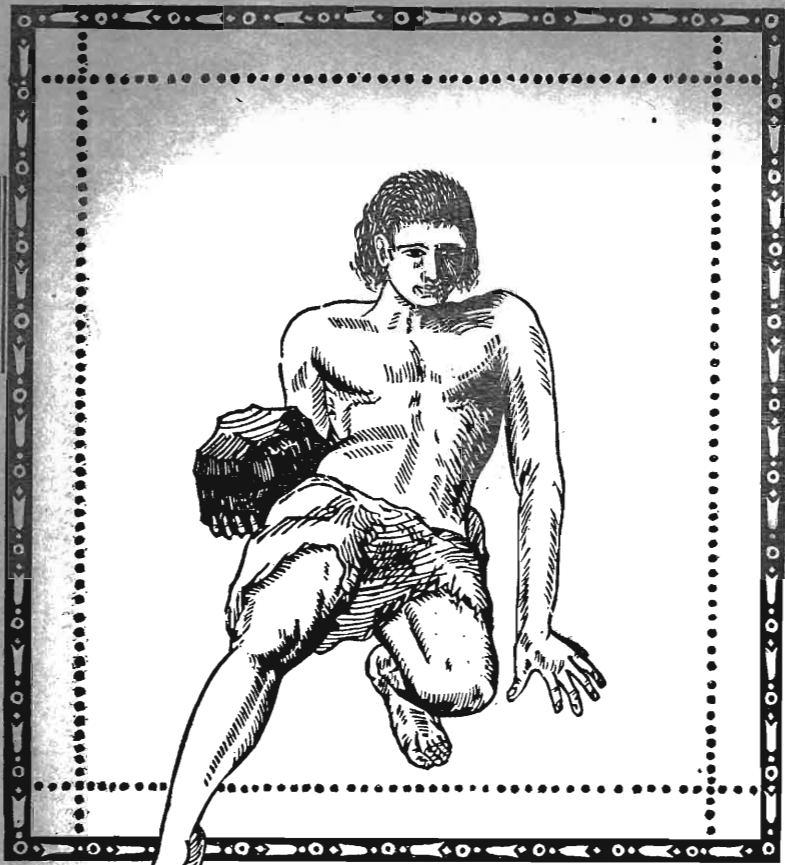
(自大正八年七月三十一日
至同年八月二十五日)

- 伊藤 盛輔 山本篤二郎 小野 重一
- 佐野 周 宮田喜代三 石井光次郎
- 天野 勝平 篠原 義雄 井上 和吉
- 中西澁三郎 高幣 萬藏 藤井喜代治
- 石橋英之助 榊原 元一 丸川 賢二
- 市村 一郎 鹽野 直一 服部 正喬
- 蜂谷 昌藏 由利 元吉 新延喜久治
- 中村 活造 阿部 嘉七 梶原 隆藏
- 堀 直幹
- 一金拾五圓 一口第一回及二回ノ内 片岡 祥一
- 一金拾六圓 寄附 戸田 順也
- 一金四拾五圓 一口追加ノ内 有地 義一
- 一金貳拾圓 一口第一、二回分 吉水 義一
- 二百口 (追加) 第二期 田中 市藏
- 第一期 野田吉兵衛
- 十五口 第一期 竹中 政一
- 十口 第一期 鷺尾 磯一
- 第一期 向坊盛一郎 鈴木 寛一
- 第二期 高畑 誠一 浪打龜次郎
- 第三期 北濱 留松
- 第四期 樽谷勘三郎
- 第十期 樽谷勘三郎
- 四口 第一期 村尾 龜一
- 三口宛 第一期 西川與一 土屋 義雄
- 第二期 石丸貞太郎 片山 篤也 武藤 松次
- 矢野 端 永津 孝實 金原孝一郎

商大問題醴金申込額 報告

(自大正八年八月二日
至十五日迄ノ分)

- 第一期 戸田 順也
- 第二期 小川善太郎 地福 俊廣 山田 不二
- 七田 常一 田中 榮 宮田治三郎
- 木原 小平 松本 修三 小川 林一
- 齋藤武之助
- 第三期 久野治三郎 木村利龜太 鹽野 直一
- 關伊右衛門 諏訪春太郎 米津喜九郎
- 中山 良一
- 第四期 市村 一郎 泉 隆一 (二口申込ノ内
更一口追加)
- 第一期 淺野 哲夫 宮城 時平 三宅哲一郎
- 第二期 田代 寅吉 小原 又作 阿部 嘉七
- 第三期 市川 宗助 井川 亮 高瀬 熊吉
- 根岸 正一 湯淺 尚 南 金太郎
- 今井 國三 瀧野龜之助 安井 馨三
- 野崎貞三郎 小池卯一郎 深田 俊助
- 石井光次郎 上塚 司 藤森 治平
- 横山徳次郎 服部彌太郎 納賀 雅友
- 豊島虎太郎 竹内準之助 高井壽三郎
- 木村銀五郎



- | | | | |
|------|---------|-------|-------|
| 第七期 | 稻田順一郎 | 井上經之助 | 太田 稔 |
| | 中西瀧三郎 | 河野 巽 | 藤原 正治 |
| | 川崎 定一 | 和田 喜八 | 宮口俊二郎 |
| | 高田清太郎 | 香春 敏夫 | |
| 第八期 | 井上 正明 | 林 庸夫 | 刀根 文雄 |
| | 大間知喜一郎 | 川人 芳男 | 小泉 種秋 |
| | 兒玉 翠靜 | 戀田 作三 | 吉井 常助 |
| | 今井隆之助 | 山田平十郎 | 朝倉 誠 |
| | 野坂喜代志 | 竹崎 龜助 | 荒木 三郎 |
| | 吉岡 源吉 | | |
| 第九期 | 原田 恭藏 | 西口彌太郎 | 城地 勝榮 |
| | 中村新三郎 | 田中 實 | 永田 秀吉 |
| | 輪田真次郎 | 鈴木嘉太郎 | |
| 第十期 | 中村 文夫 | 飯田 清一 | 池川 重吉 |
| | 木下 茂 | 服部 正喬 | 竹内 象藏 |
| | 磯上善次郎 | 尾中寅次郎 | 小田 萬藏 |
| | 鷲崎 政六 | 今城 説次 | 泉 俊一 |
| | 深見太郎右衛門 | 上田 水足 | 青柳 辰雄 |
| | 高田 逸喜 | 河野 停一 | 加藤 録藏 |
| | 大村秀次郎 | | |
| 第十一期 | 富井 元一 | 水澤 驥 | 山崎 六郎 |
| | 泉 威八郎 | 森 太元 | 久保 博義 |
| | 落合 豊一 | 福田 順三 | 竹下 二七 |
| | 松井 愛邦 | 豊島喜一郎 | 林 政嘉 |
| | 野崎 正美 | | |
| 第十二期 | 二宮 與平 | 寺田 立雄 | 東野 和介 |
| | 小石俊三郎 | 飯田今太郎 | 高幣 萬藏 |
| | 岡本勝太郎 | 松井 秀亮 | 寺西 好威 |
| | 新延喜久治 | 下村雄二郎 | 井關 長藏 |
| | 向井 輝志 | | |
| 第十三期 | 原 義之助 | 大塚富士夫 | 葛目 成孝 |

第四回故藤谷君遺族
慰問贈金申込者

- (自七月一日 至八月二十日)
- 中村勝四郎 市川 忍 宇田清一郎
 - 中村 彌六 磯江 茂 大久保吉郎
 - 木平 信美 杉山航三郎 橋本 一夫
 - 平井 敏也 渡邊音次郎 佐藤 浩
 - 平野榮三郎 鈴木 元善

第四回故藤谷君遺族
慰問贈金拂込者

- (自七月一日 至八月二十日)
- 一金貳拾圓也
 - 小計金九拾七圓也
 - 合計金六百參拾六圓也

記念祭號發行

締切 十月十日
發行 十月二十五日
九月號休刊

- 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
- 小計百金六拾參圓也
- 合計金五百四拾五圓也
- 東京高商卒業
- 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
- 六回 寺崎榮一郎君
- 四回 岩本安之助君
- 四回 中島 俊郎君
- 五回 木谷 勝郎君
- 同 小早川 勝君
- 同 上田 榮三君
- 同 刀瀧館正雄君
- 同 江上 龜雄君
- 同 富田 租君
- 同 吉田啓次郎君
- 同 高瀬 熊吉君
- 同 東 義一君
- 同 垣内幸太郎君
- 同 伊藤郁三郎君
- 同 大井傳次郎君
- 同 石井 功君
- 同 福島 光源君
- 同 井川 亮君
- 同 久米 護郎君

學友會報

記念祭號

神戶高等商業學校學友會

大正八年八月二十九日印刷
大正八年八月三十一日發行 (非賣品)
兵庫縣武庫郡西灘村森三十番地
編輯兼發行人 窪田 安次郎
兵庫縣神戶市三宮町一丁目三百廿番地
印刷人 辻 仁三郎
發行所 神戶高等商業學校學友會